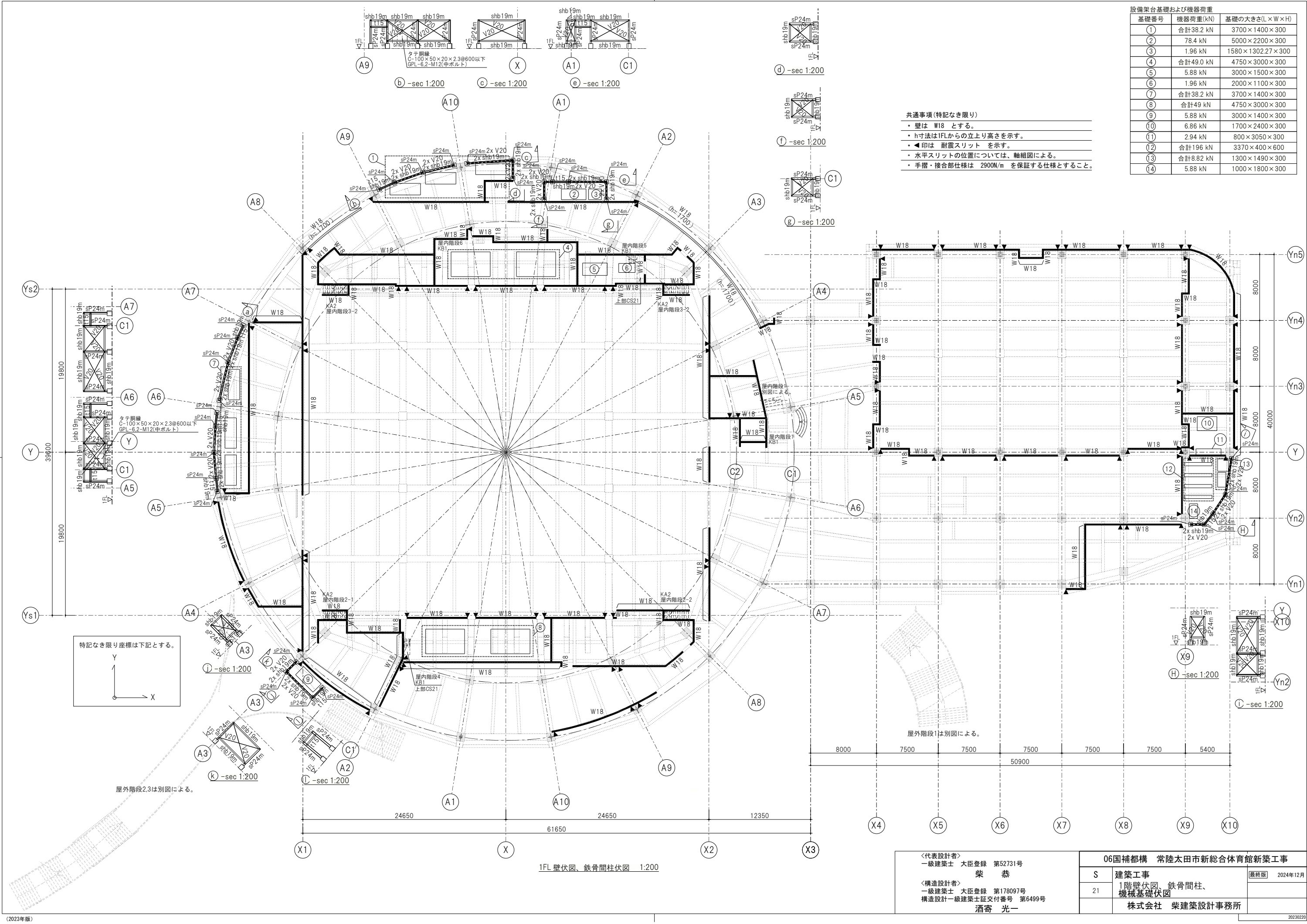




設備架台基礎および機器荷重		
基礎番号	機器荷重(kN)	基礎の大きさ(L×W×H)
①	合計38.2 kN	3700×1400×300
②	78.4 kN	5000×2200×300
③	1.96 kN	1580×1302.27×300
④	合計49.0 kN	4750×3000×300
⑤	5.88 kN	3000×1500×300
⑥	1.96 kN	2000×1100×300
⑦	合計38.2 kN	3700×1400×300
⑧	合計49 kN	4750×3000×300
⑨	5.88 kN	3000×1400×300
⑩	6.86 kN	1700×2400×300
⑪	2.94 kN	800×3050×300
⑫	合計196 kN	3370×400×600
⑬	合計8.82 kN	1300×1490×300
⑭	5.88 kN	1000×1800×300

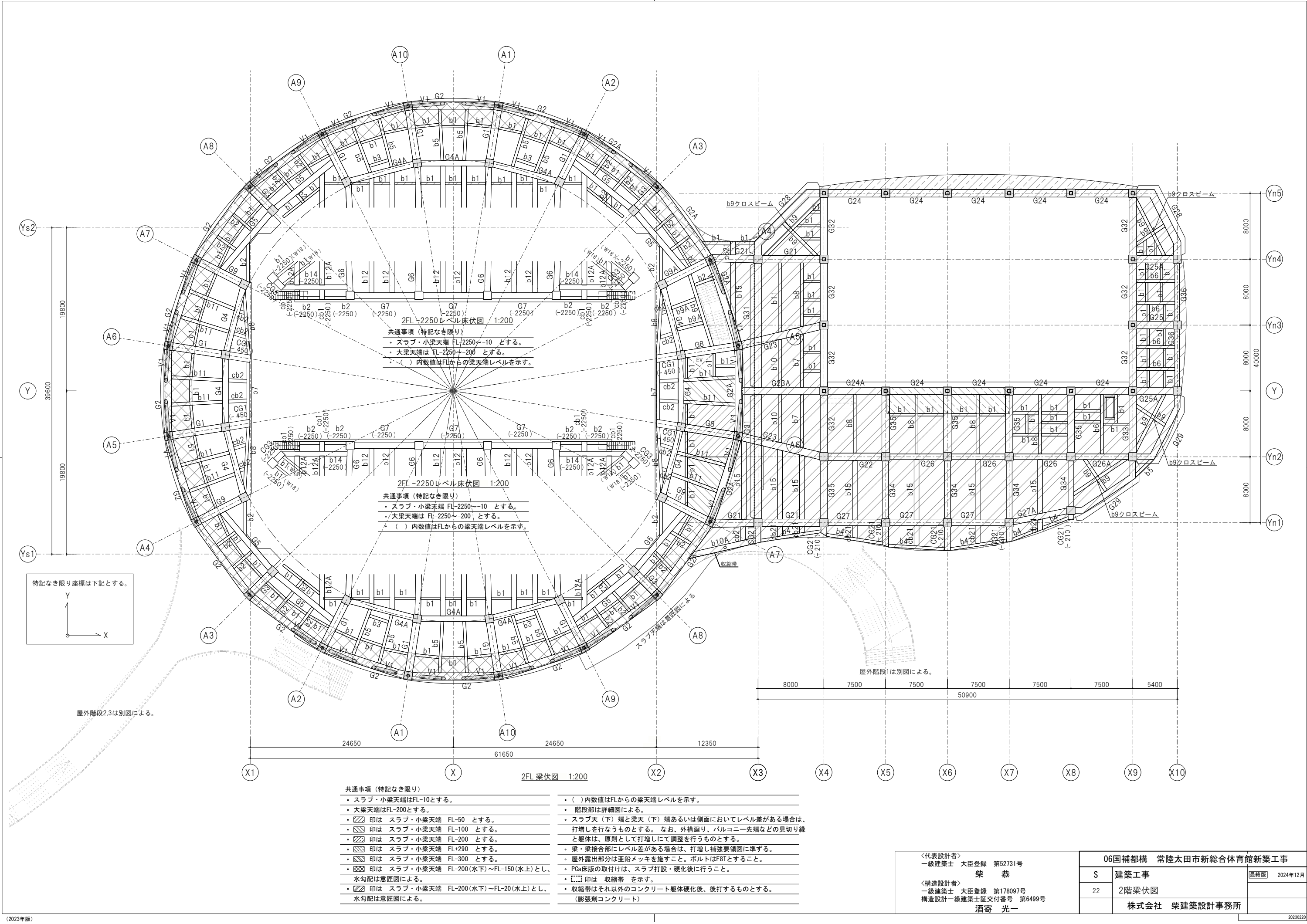
- 共通事項(特記なき限り)
- ・ 壁は W18 とする。
 - ・ h寸法は1FLからの立上り高さを示す。
 - ・ ◀印は 耐震スリット を示す。
 - ・ 水平スリットの位置については、軸組図による。
 - ・ 手摺・接合部仕様は 2900N/m を保証する仕様とすること。

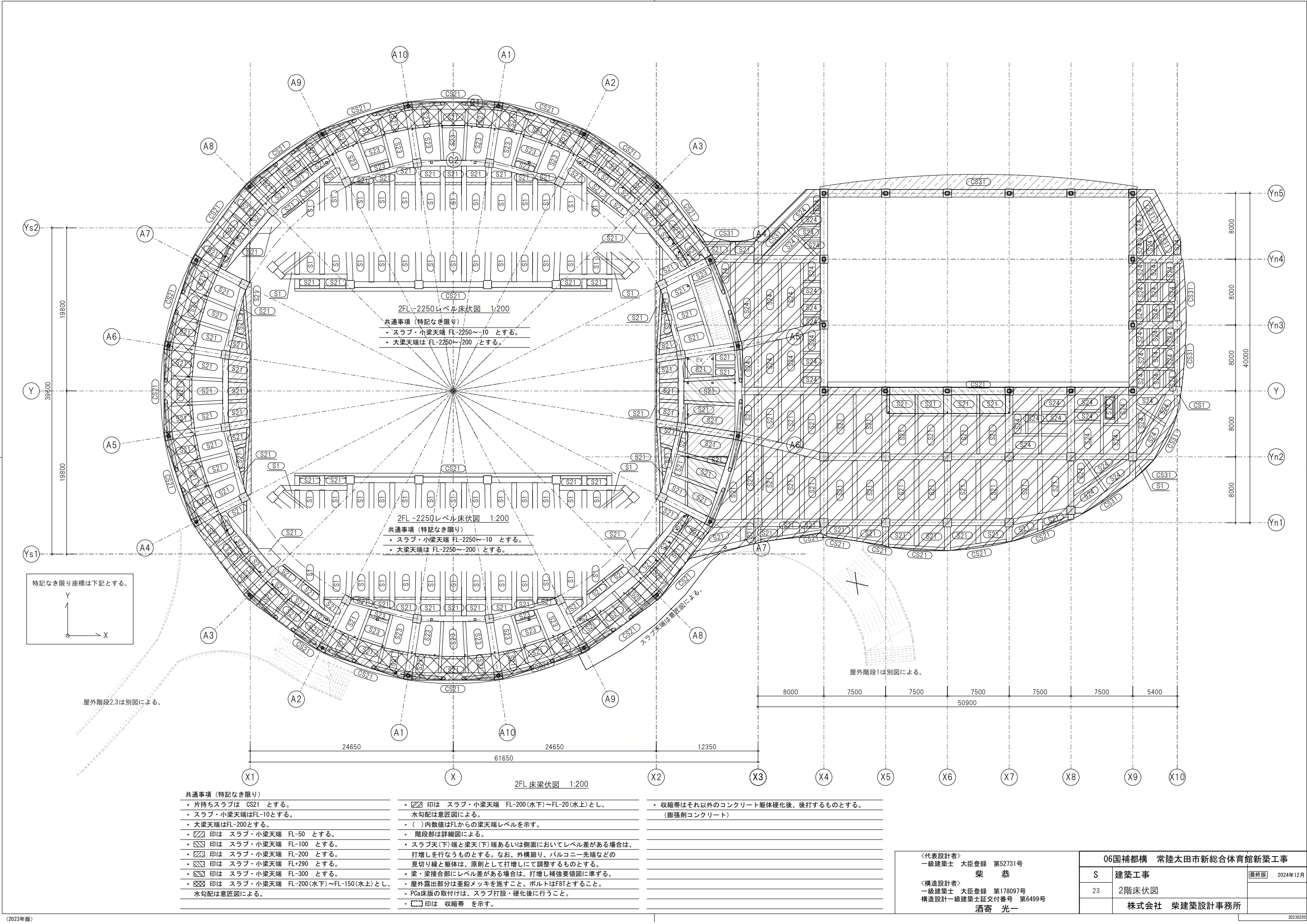
屋外階段1は別図による。

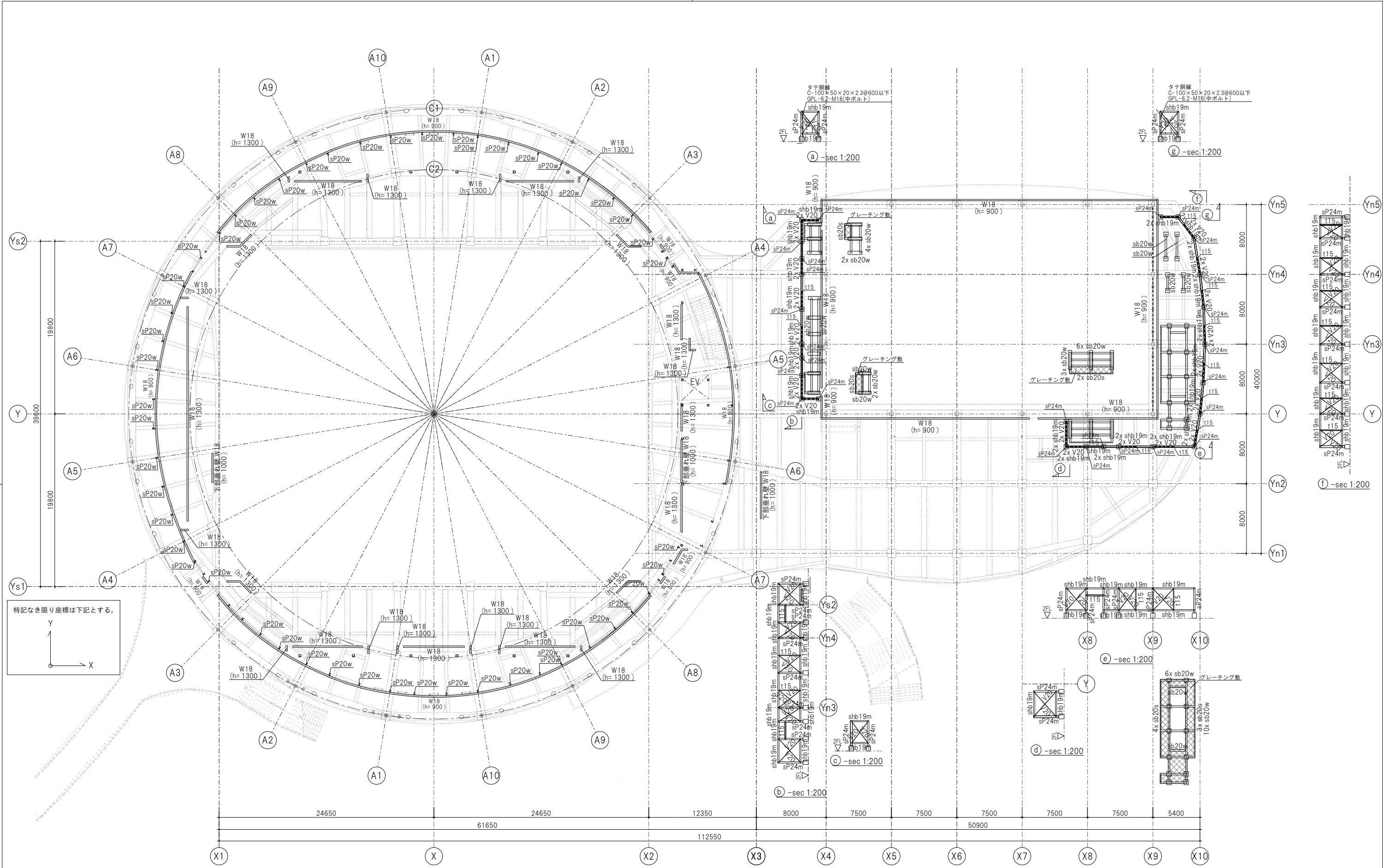
屋外階段2,3は別図による。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
S	建築工事	最終版 2024年12月
21	1階壁伏図、鉄骨間柱、 機械基礎伏図	
株式会社 柴建築設計事務所		







特記なき限り座標は下記とする。

Y
↑
X
→

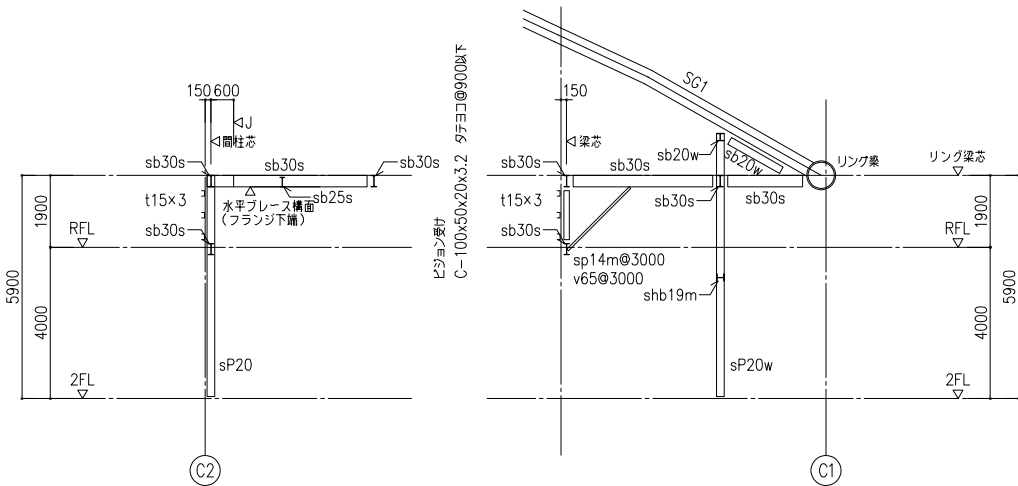
共通事項(特記なき限り)	
・ 壁は W18 とする。	・ シャッター受け等には垂れ壁W180を設けること。
・ h寸法は2FLからの立上り高さを示す。	・ ネットフェンス受けは張力を保証する仕様とすること。
・ ◀印は 耐震スリット を示す。	・ 手摺・接合部仕様は2900N/mを保証する仕様とすること。
・ 水平スリットの位置については、軸組図による。	
・ ☒はグレーチング敷とする。	
・ EOP等開口補強 梁: shb19m、間柱: sP19m とする。	

2FL 壁伏図、鉄骨間柱伏図 1:200

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
S	建築工事
24	2階RC壁、鉄骨間柱、機械基礎伏図
株式会社 柴建築設計事務所	

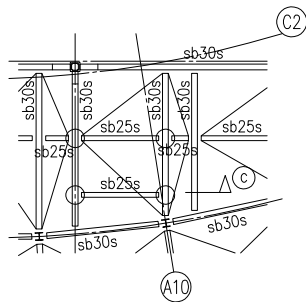
＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭	＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一
--------------------------------------	--

最終版	2024年12月
-----	----------



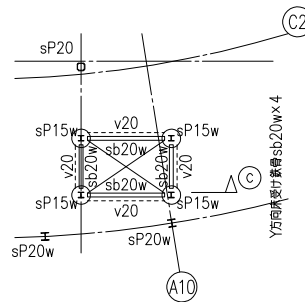
a - sec

b - sec



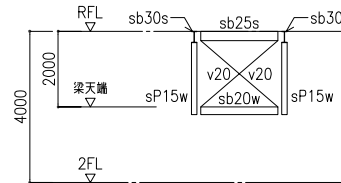
R階+1900床梁伏図 ⑦部 1:100

- 共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨梁天端は RFL+1900 とする。
 - は 吊材 sP15 を示す。

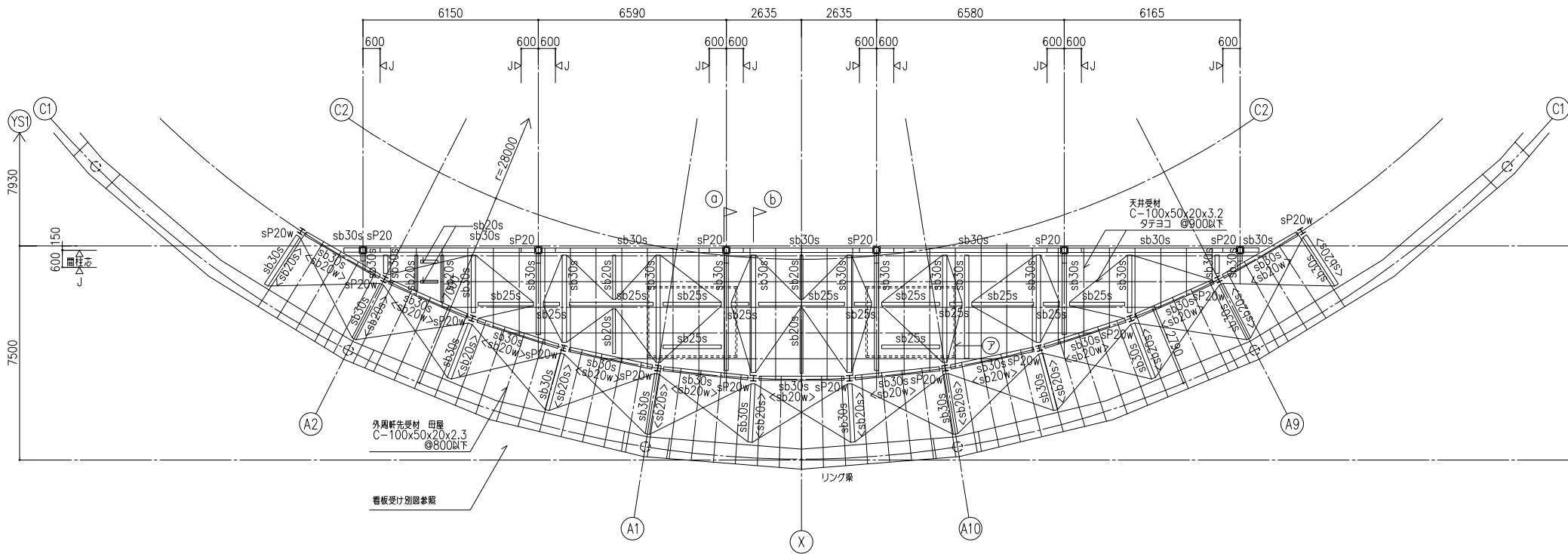


R階-2000床梁伏図 ⑦部 1:100

- 共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨梁天端は RFL-2000 とする。
 - は 水平ブレース V20 を示す。

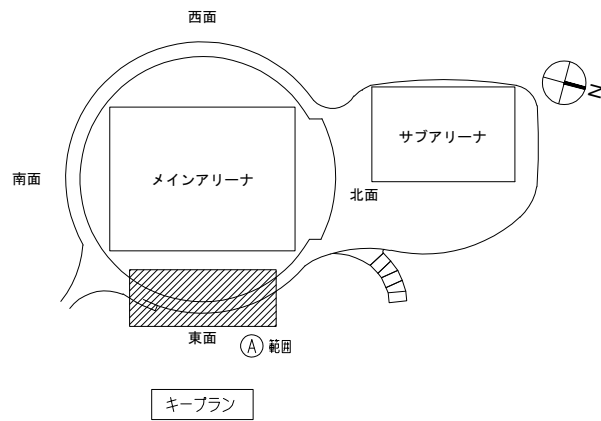


c - sec

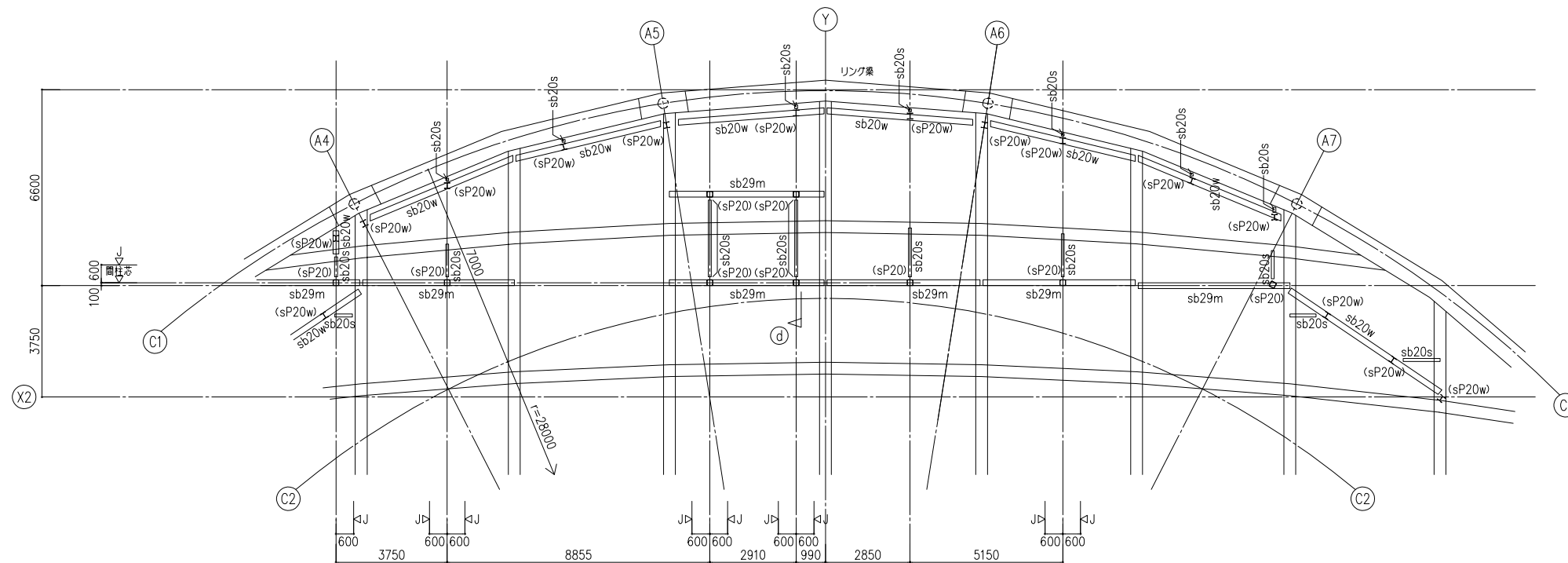


R階+1900床梁伏図 ①A範囲 1:100

- 共通事項（特記なき限り）
- 鉄骨梁天端は RFL+1900 とする。
 - < > 内の鉄骨梁天端は 屋根の勾配に合わせて合わせるもの とする。
 - は 水平ブレース V20 を示す。
 - は 観手位置 を示す（突合せ溶接、剛接合）。
 - 床段差・床仕上げの勾配に応じ、Cなどの裏上げを行うものとする。
 - 吊材は突合せ溶接とする。



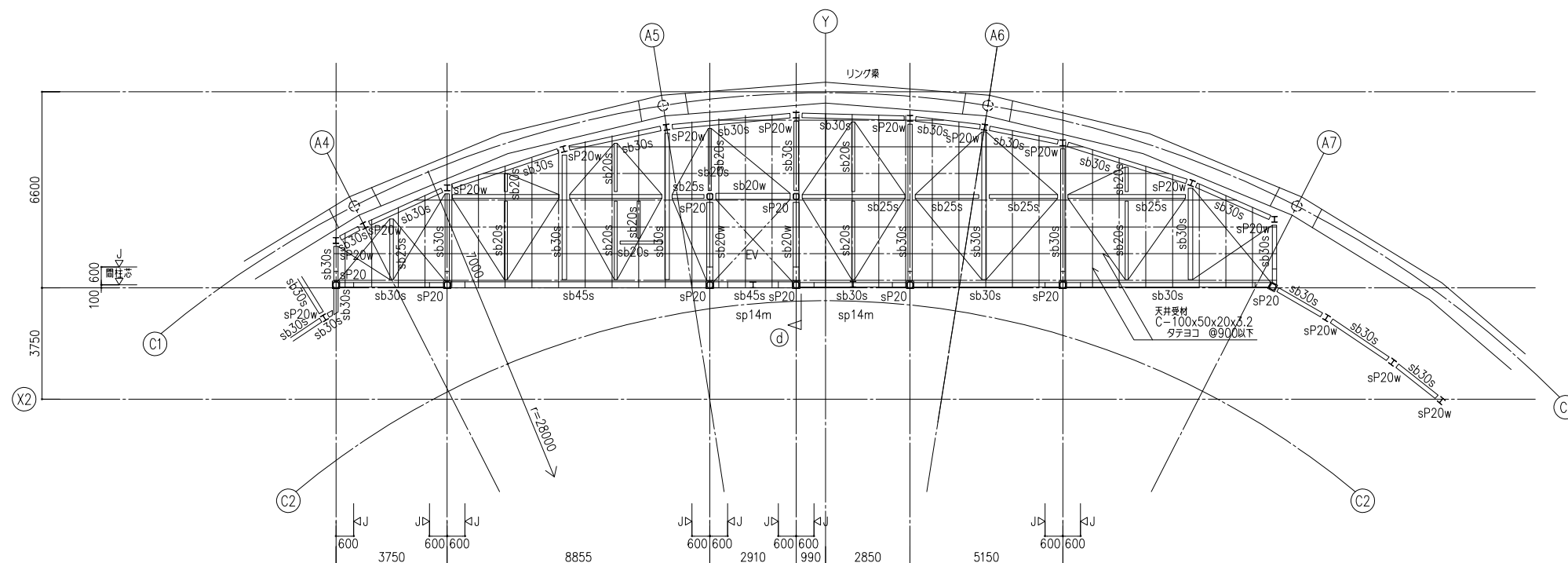
＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
S	建築工事	R階+1900レベル床梁伏図 (1)	最終版 2024年12月
	25		
＜構造設計＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一		株式会社 柴建築設計事務所	



屋根梁伏図 (B) 範囲 1:100

共通事項（特記なき限り）

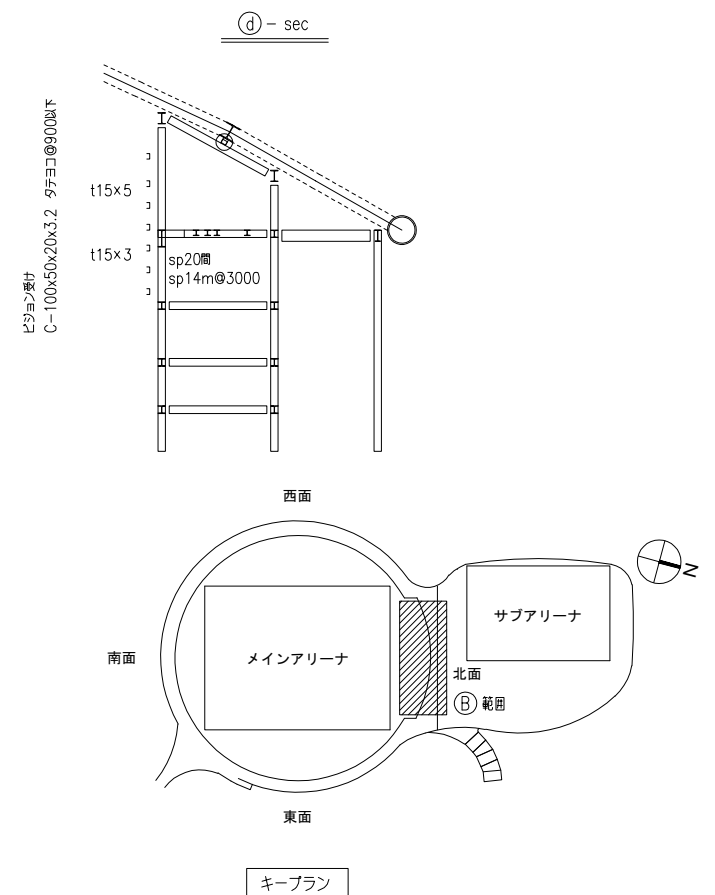
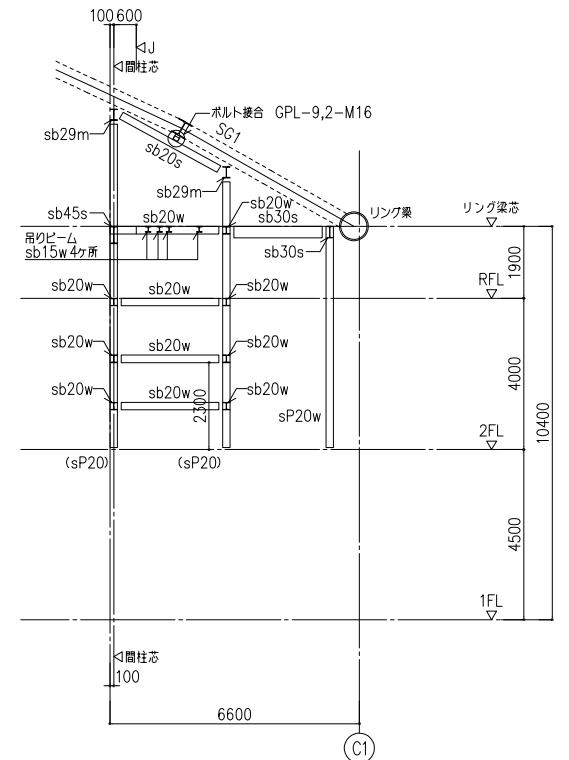
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 鉄骨梁天端は、屋根の勾配に合わせるものとする。 | <ul style="list-style-type: none"> 床仕上げの勾配に準じ、C1などの嵩上げを行うものとする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 大梁は、両方向共 SG1 とする。 | <ul style="list-style-type: none"> () 内の間柱は、屋根梁伏図にある小梁まで延ばすものとする。 |



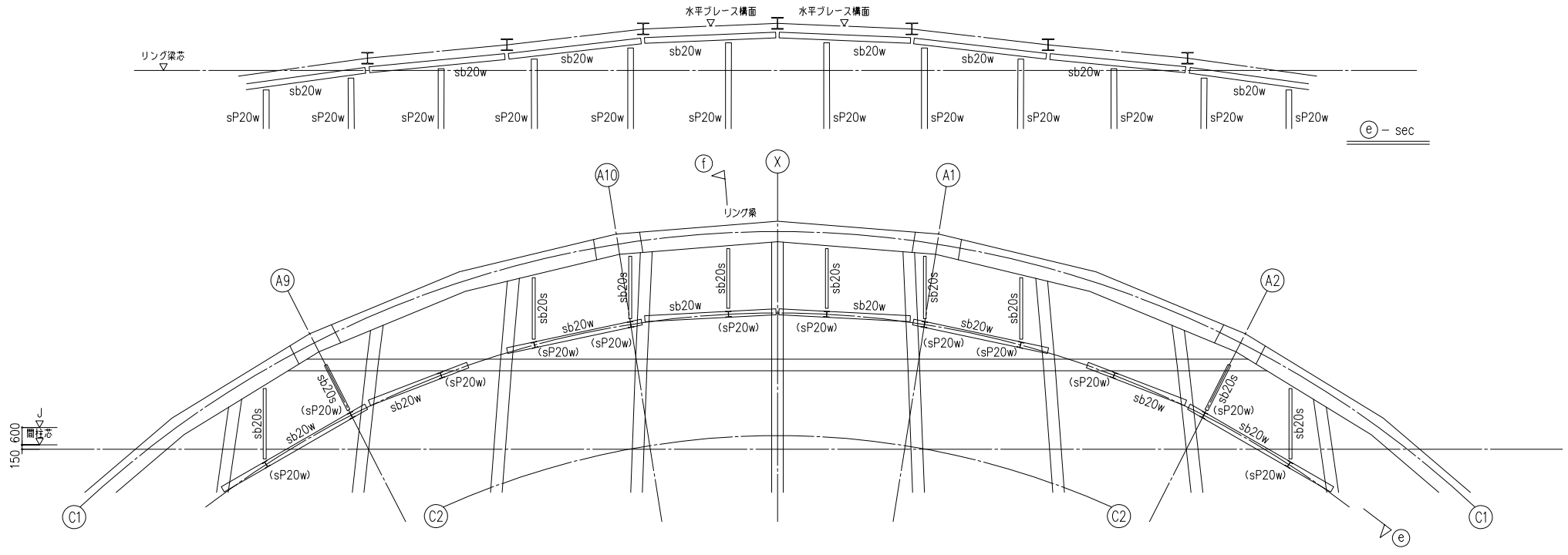
R階+1900床梁伏図 (B) 範囲 1:100

共通事項（特記なき限り）

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 教養梁天蓋は RFL+1900 とする。 < > 内の教養梁天蓋は 屋根の勾配に合わせるもの とする。  は 水平ブレス V20 を示す。 | <ul style="list-style-type: none"> KJ は 鋸手位置 を示す(突合せ接続、剛接合)。 床段差・床仕上げの勾配に応じ、CTなどの嵩上げを行うものとする。 吊材は突合せ接続とする。 |
|--|---|

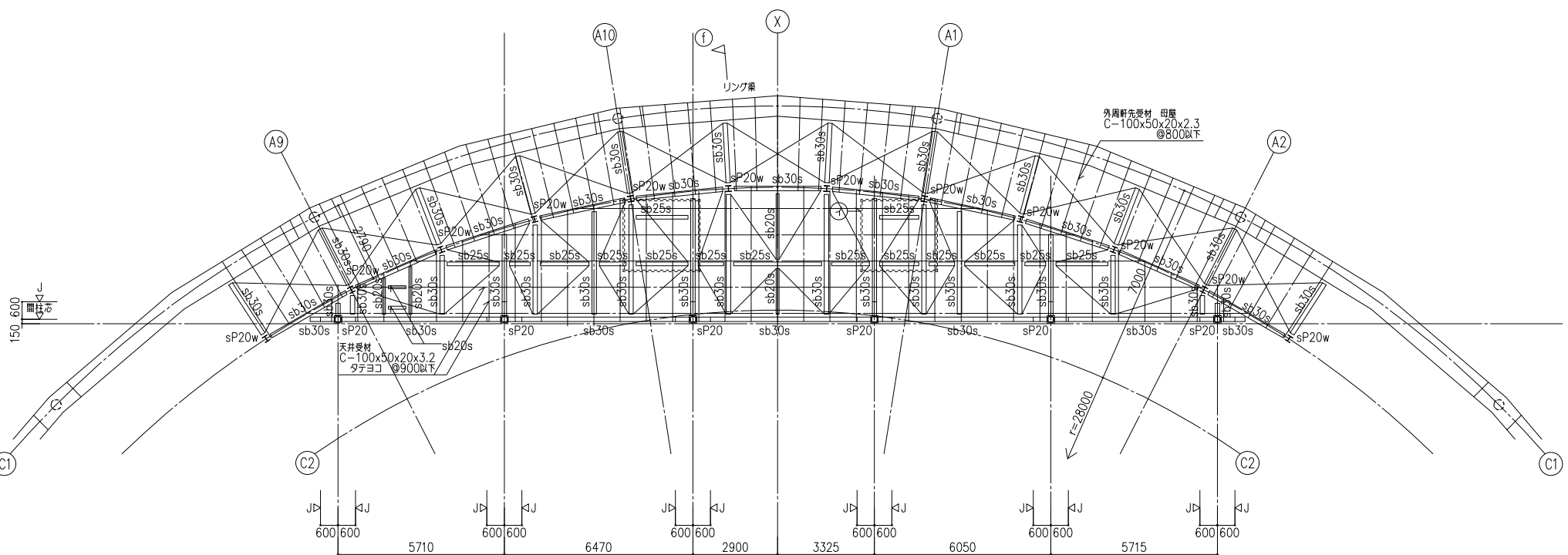


<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
		S	建築工事	[最終版] 2024年12月
<構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一		26	R階×1900レベル床梁伏図 (2) 1: 100 (A1) 1: 200 (A3)	
		株式会社 柴建築設計事務所		



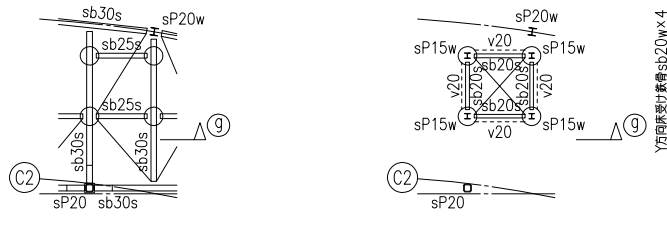
屋根梁伏図 (C) 範囲 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨梁天端は 屋根の勾配に合わせるもの とする。
 - 大梁は 両方向共 SG1 とする。
 - 床仕上げの勾配に応じ、CTなどの嵩上げを行うものとする。
 - () 内の間柱は、屋根梁伏図にある小梁まで延ばすものとする。



R階+1900床梁伏図 (C) 範囲 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨梁天端は RFL+1900 とする。
 - < > 内の鉄骨梁天端は 屋根の勾配に合わせるもの とする。
 - 床段差・床仕上げの勾配に応じ、CTなどの嵩上げを行うものとする。
 - 吊材は突合せ継接合とする。
 - 吊手位置 を示す (突合せ継接合、剛接合)。
 - 床段差・床仕上げの勾配に応じ、CTなどの嵩上げを行うものとする。

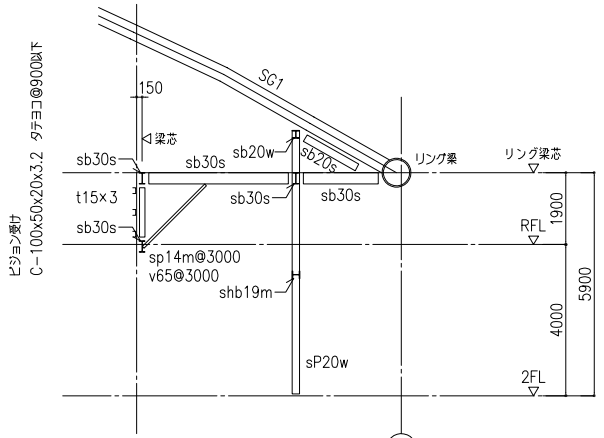
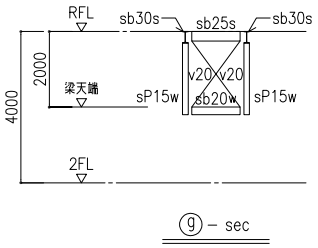


R階+1900床梁伏図 (I) 部 1:100

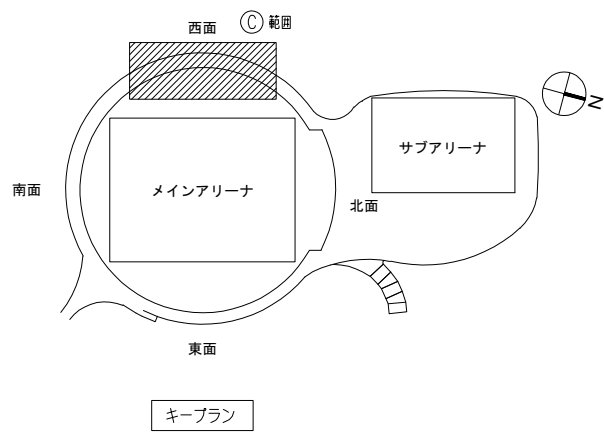
- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨梁天端は RFL+1900 とする。
 - 吊材は 吊材 sP15 を示す。

R階+2000床梁伏図 (I) 部 1:100

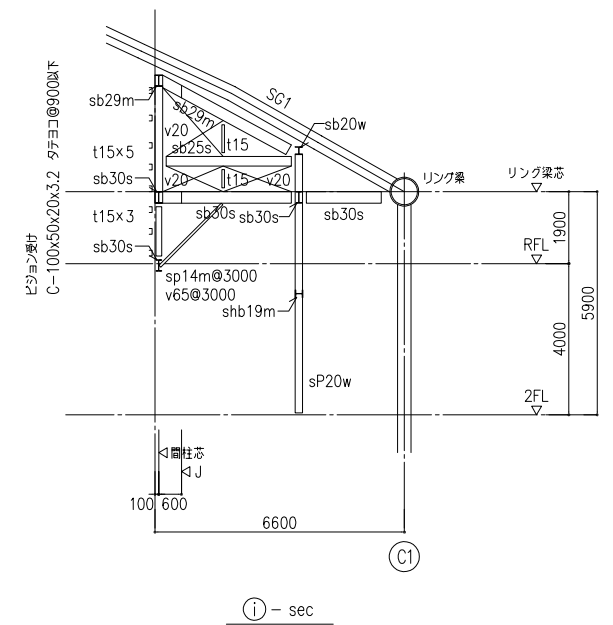
- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨梁天端は RFL+2000 とする。
 - 水平ブレース V20 を示す。



f - sec



＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一		S 建築工事	最終版 2024年12月
27 R階+1900レベル床梁伏図 (3)		1: 100 (A1) 1: 200 (A3)	
株式会社 柴建築設計事務所			



共通事項（特記なき限り）

-

共通事項（特記なき限り）

- 〈代表設計者〉
一級建築士 大臣登録 第52731号

柴 恭

- 〈構造設計者〉
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号

酒寄 光一

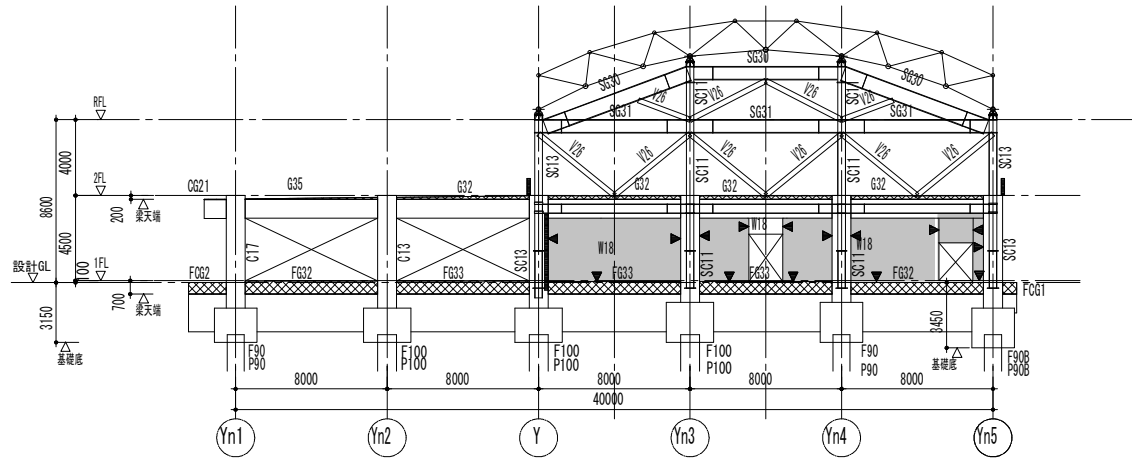
06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S	建築工事
---	------

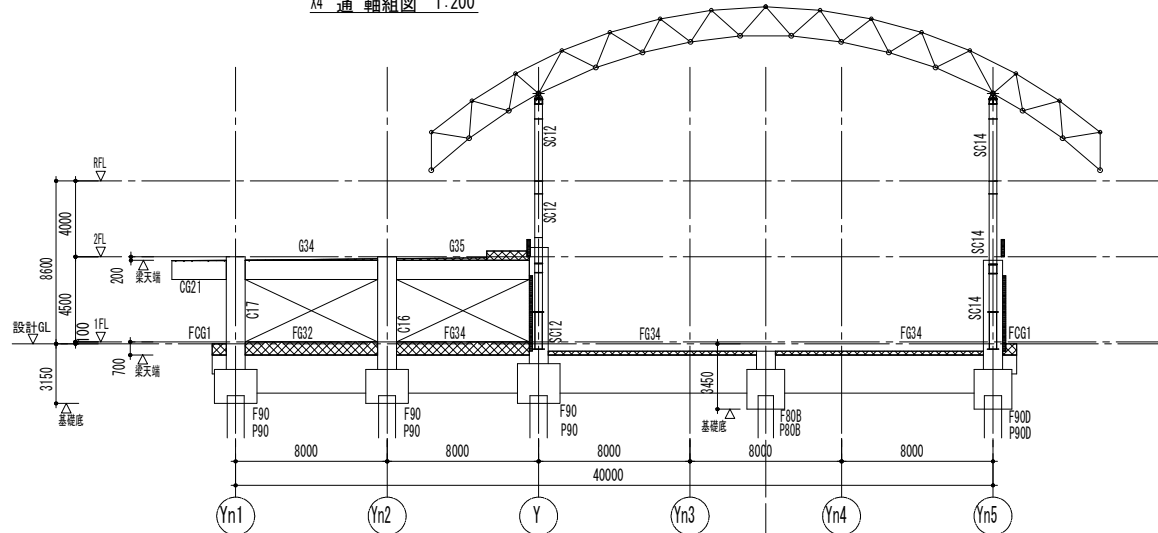
R階+1900レベル床梁伏図 (4)

株式会社 柴建築設計事務所

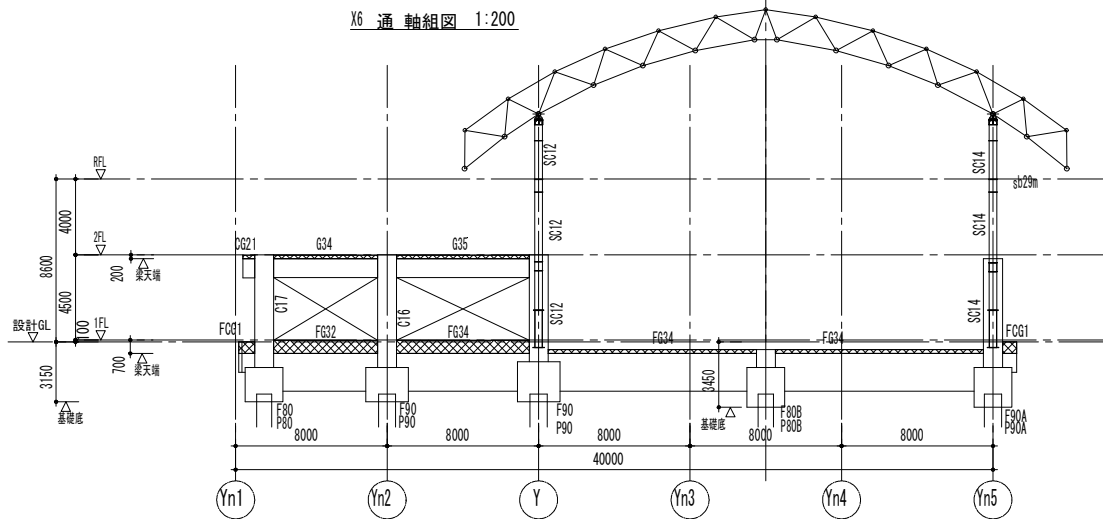
最終版 2024年12月



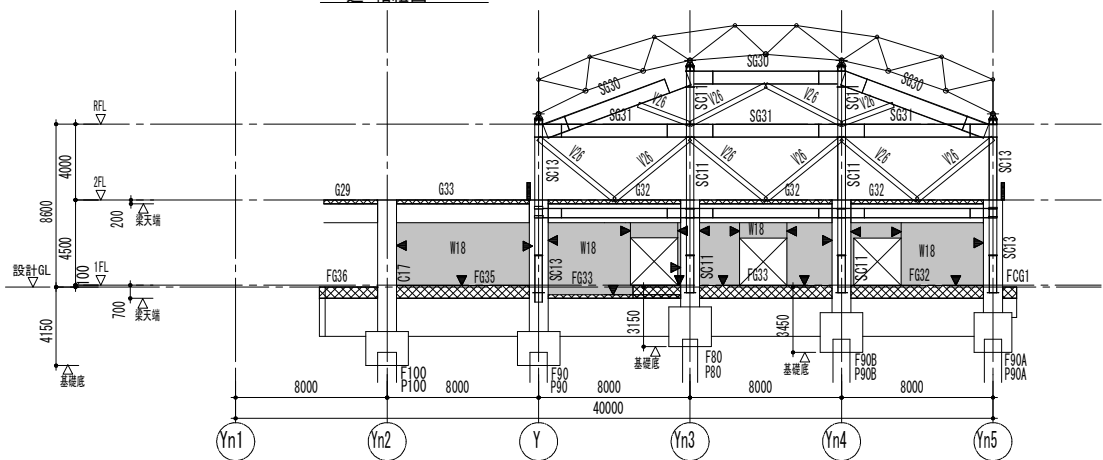
X4 通 軸組図 1:200



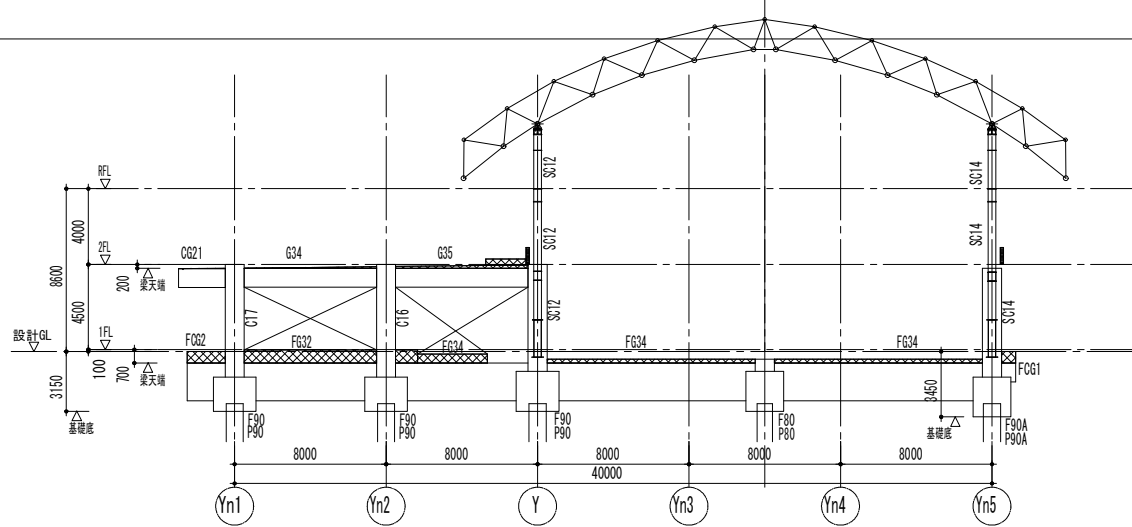
X6 通 軸組図 1:200



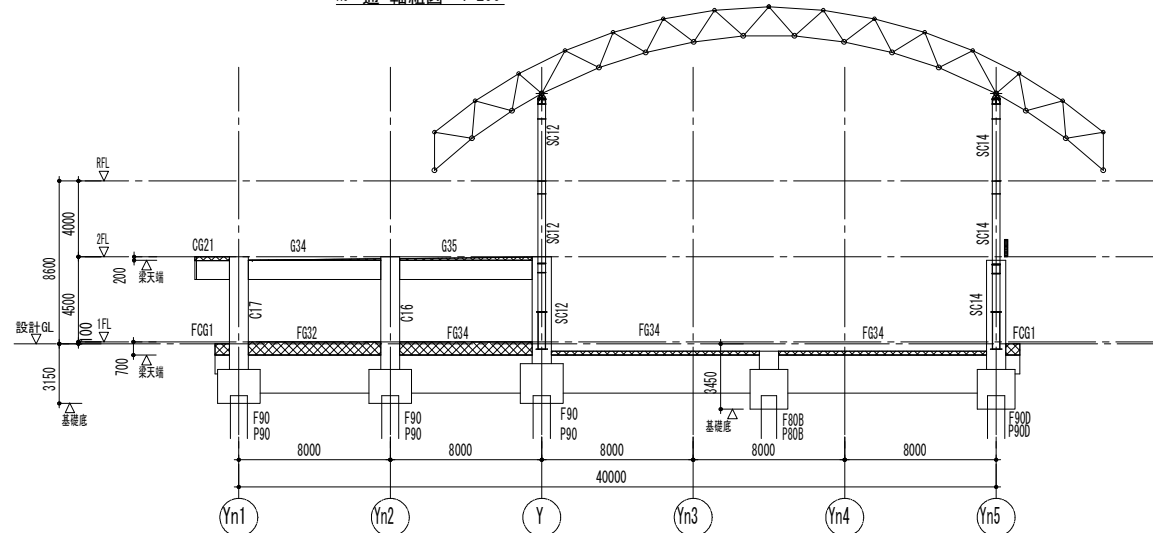
X8 通 軸組図 1:200



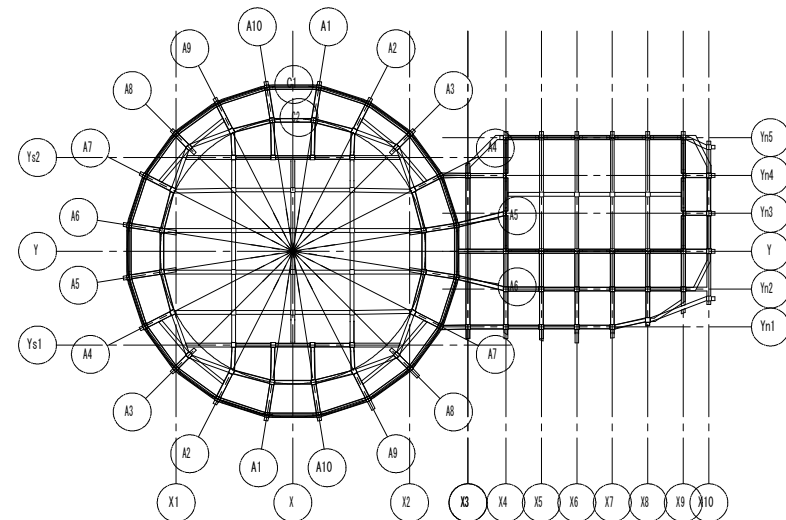
X9 通 軸組図 1:200



X5 通 軸組図 1:200



X7 通 軸組図 1:200



軸組図キープラン

共通事項 (特記なき限り)

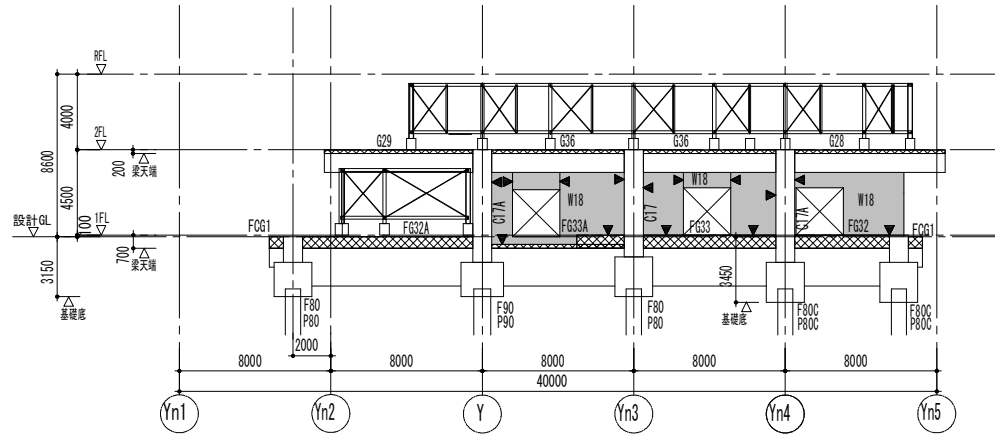
- ・◁ J印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。
 - ・BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。
 - ・間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
 - ・主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
 - ・柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
- また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。

- ・ 柱節割については、施工条件等によって監理者の承認の上、最終決定するものとする。
- ・ 通しダイヤフラムはSN490C (≧40)はTMCP鋼、大臣認定品)とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- ・ 印はコンクリート打増しを示す。
- ・ ▲印は構造スリットを示す。

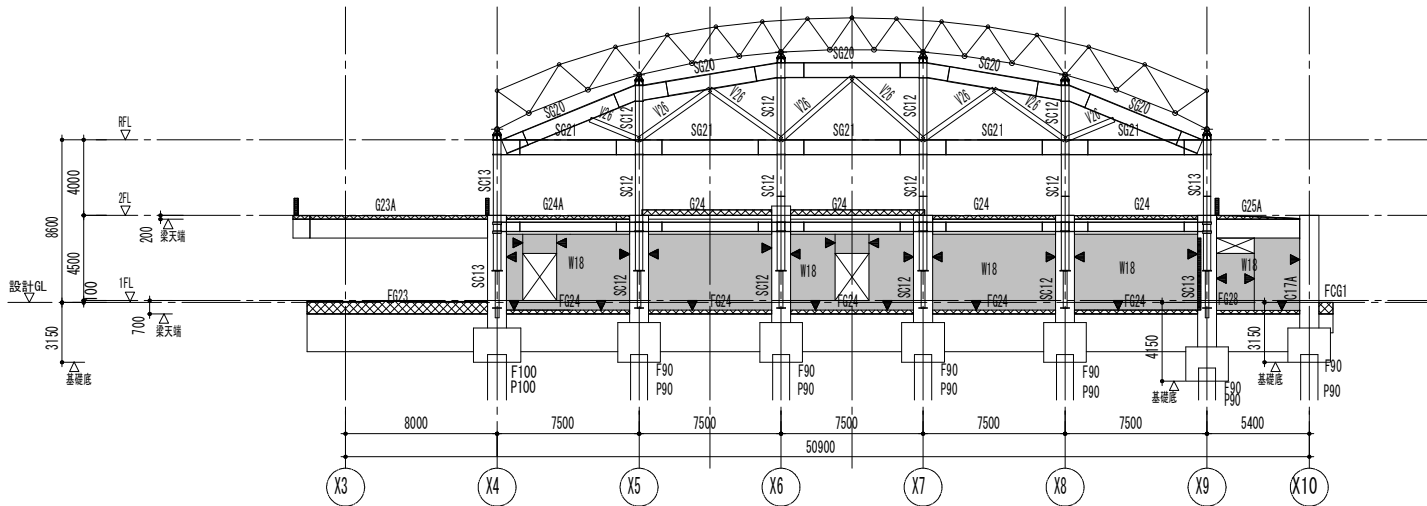
〈代表設計者〉
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
〈構造設計者〉
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事
S 建築工事
31 軸組図 (1)
株式会社 柴建築設計事務所

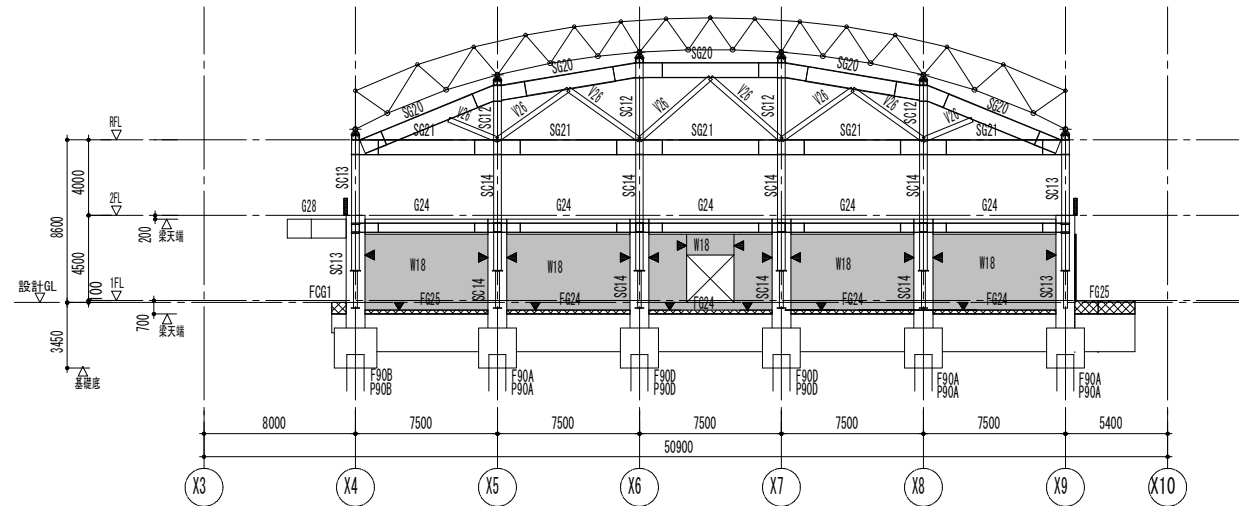
最終版 2024年12月



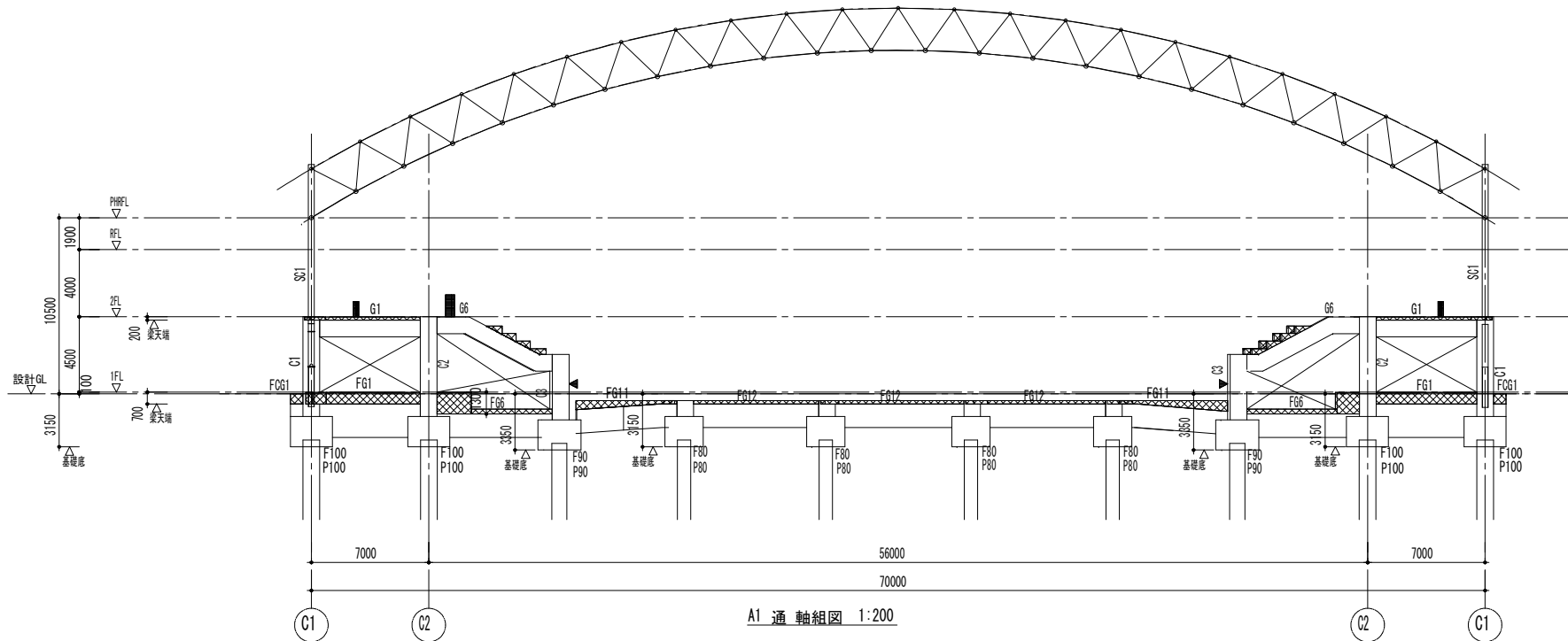
X10 通 軸組図 1:200



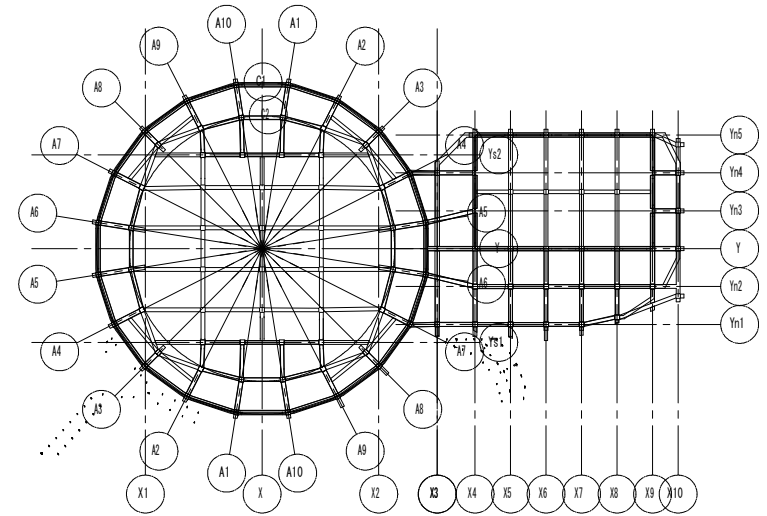
Y 通 軸組図 1:200



Yn5 通 軸組図 1:200



A1 通 軸組図 1:200



軸組図キープラン

共通事項 (特記なき限り)

- ・ < J 印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。
 - ・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。
 - ・ 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
 - ・ 主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
 - ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
- また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。

- ・ 柱節制については、施工条件等によって監理者の承認の上、最終決定するものとする。
- ・ 通しダイヤフラムはSN490C (t>40はTMCP鋼、大臣認定品)とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- ・ 印はコンクリート打増しを示す。
- ・ ▲印は構造スリットを示す。

<代表設計者>

一級建築士 大臣登録 第52731号

柴 恭

<構造設計者>

一級建築士 大臣登録 第178097号

構造設計一級建築士証交付番号 第6499号

酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S

建築工事

最終版 2024年12月

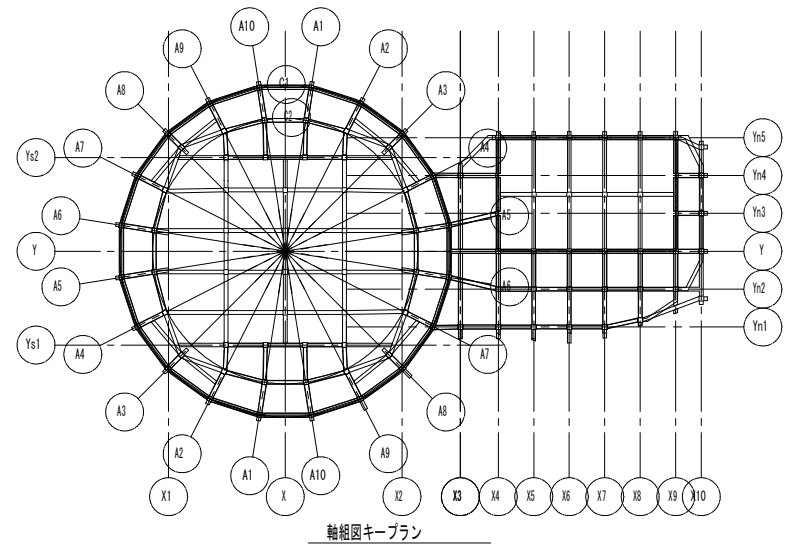
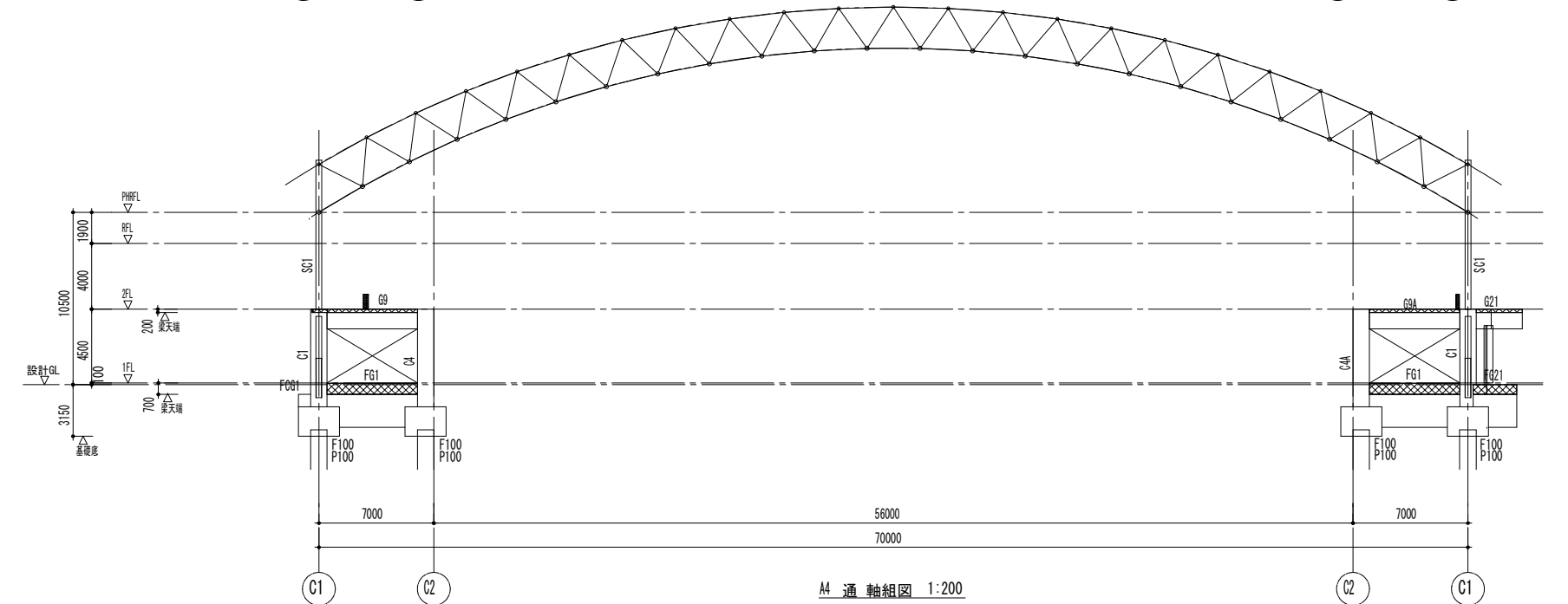
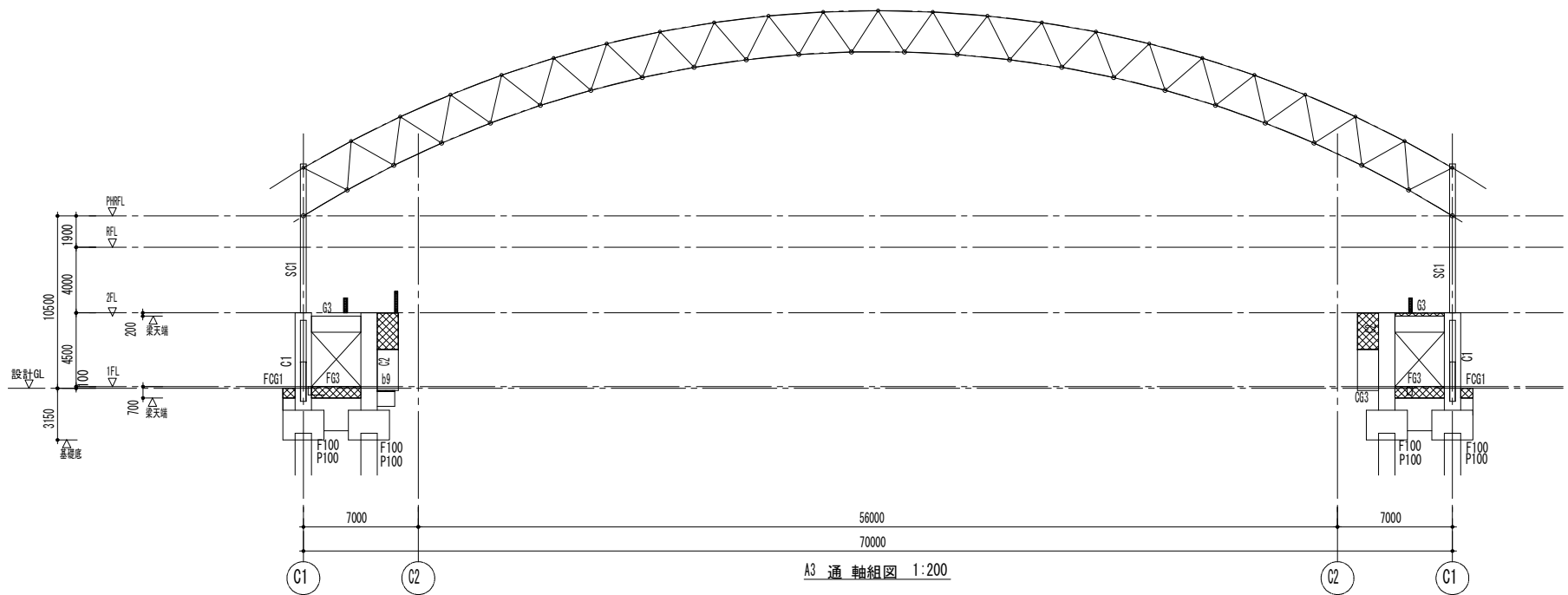
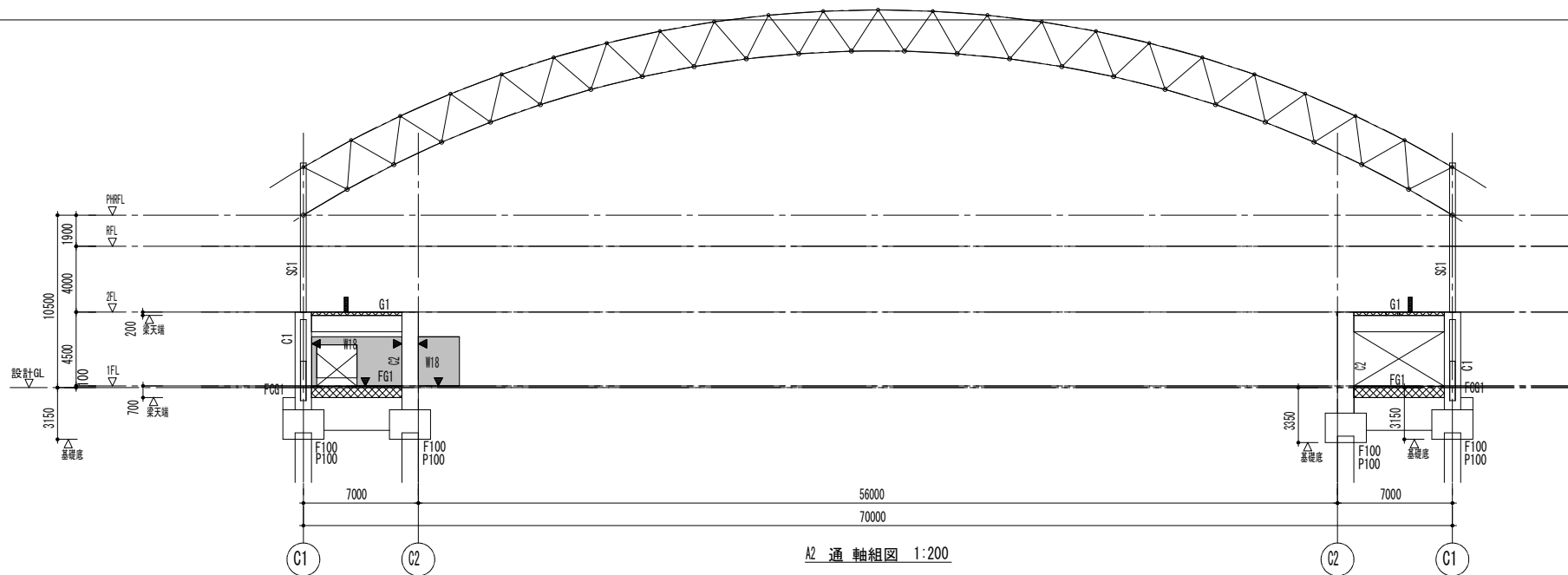
32

軸組図 (2)

S=1:200 (A1)

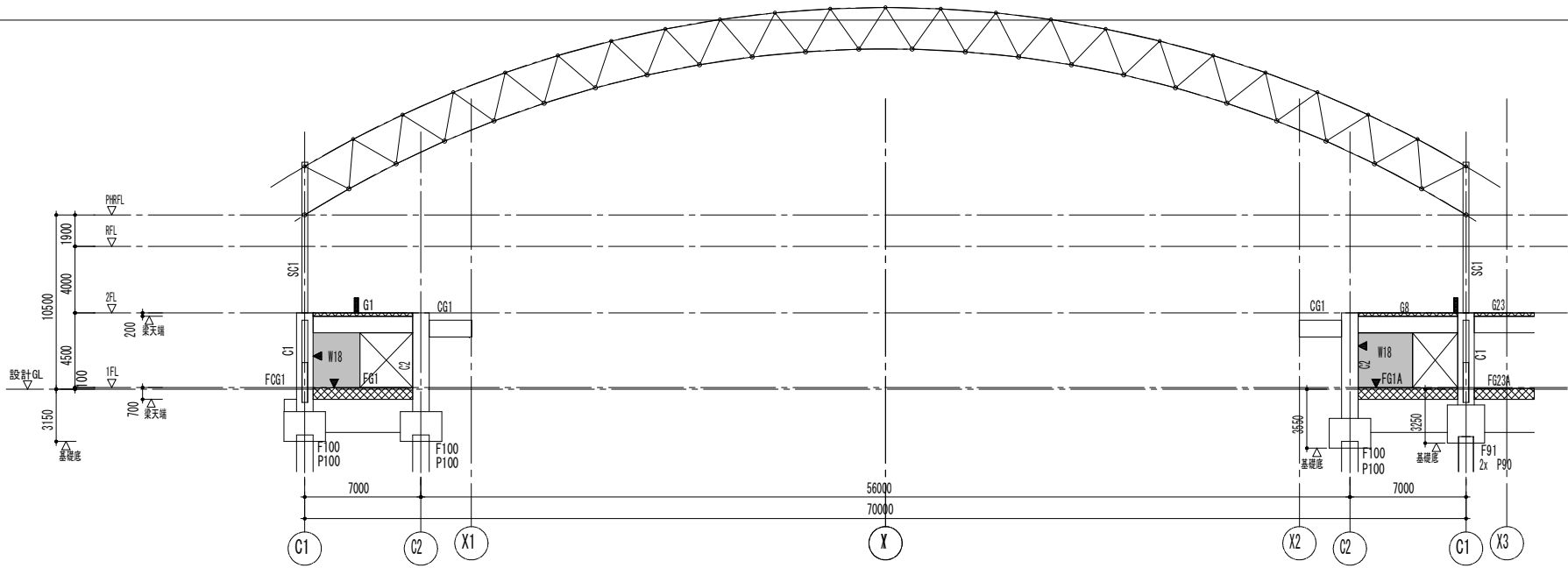
S=1:400 (A3)

株式会社 柴建築設計事務所

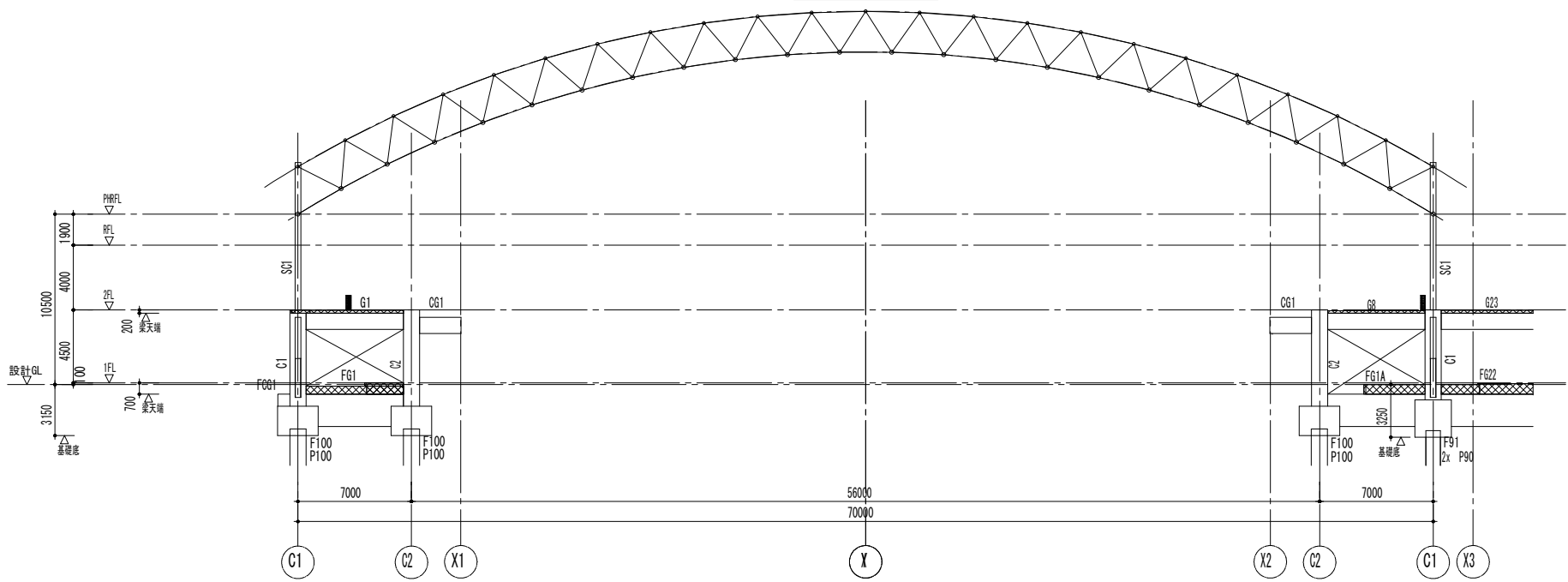


共通事項 (特記なき限り)			
・ < J 印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。		・ 柱部割については、施工条件等によって監理者の承認の上、最終決定するものとする。	
・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。		・ 通しダイヤフラムはSN490C (t>40)はTMOP鋼、大臣認定品)	
・ 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。		とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。	
・ 主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。		・  はコンクリート打増しを示す。	
・ 柱・梁仕口において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。		・  印は構造スリットを示す。	
また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。			

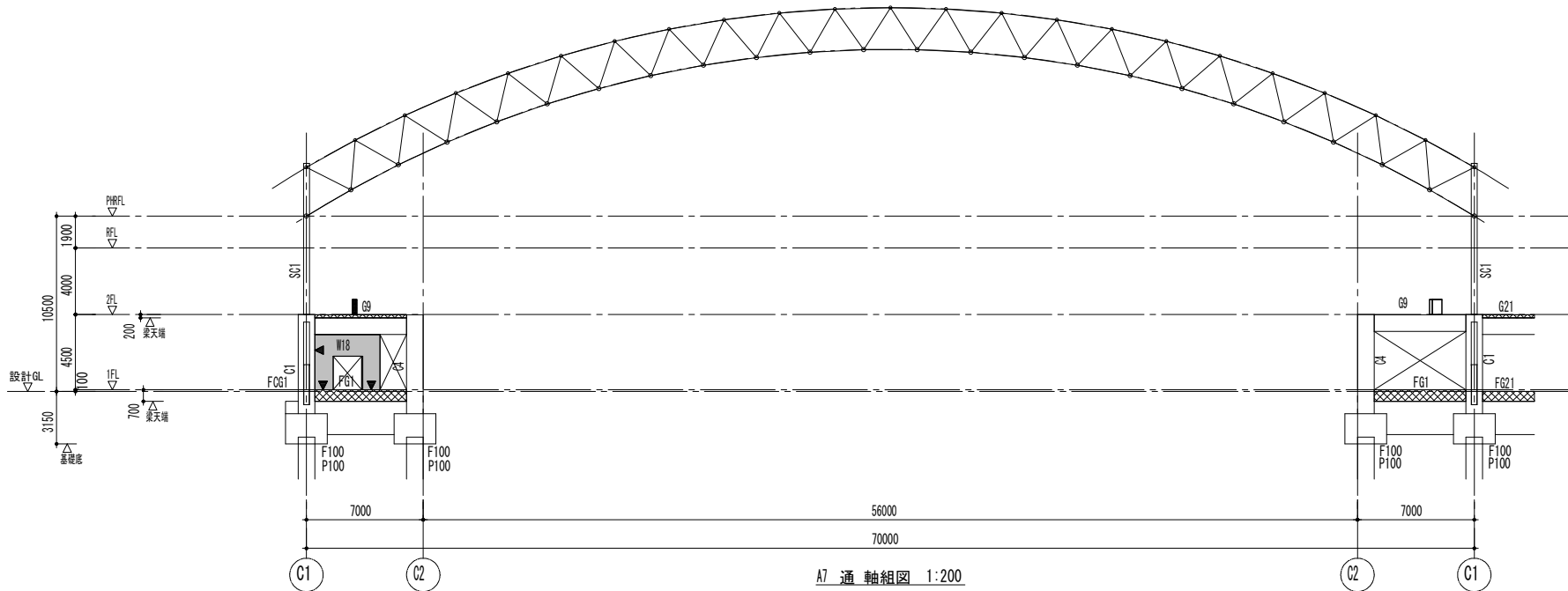
＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一		§ 建築工事	最終版 2024年12月
		33 軸組図 (3)	S-1: 200 (A1) S-1: 400 (A3)
		株式会社 柴建築設計事務所	



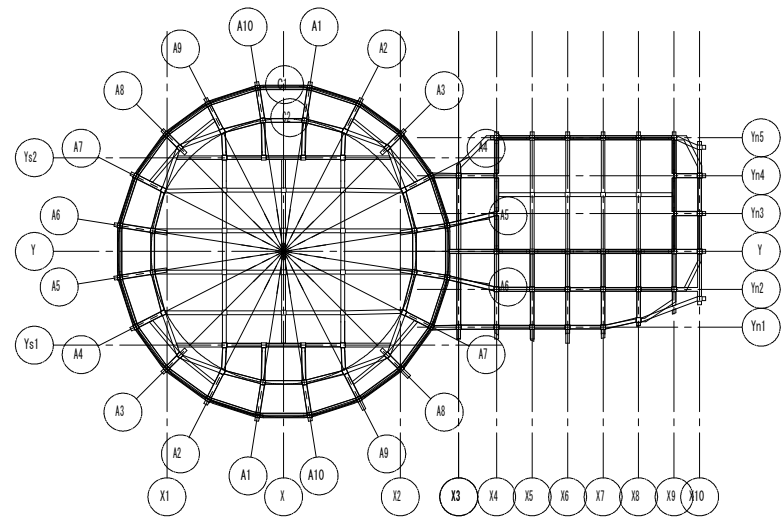
A5 通 軸組図 1:200



A6 通 軸組図 1:200



A7 通 軸組図 1:200



軸組図キープラン

共通事項 (特記なき限り)

- ・ < J印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。
- ・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。
- ・ 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
- ・ 主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
- ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
- ・ また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。

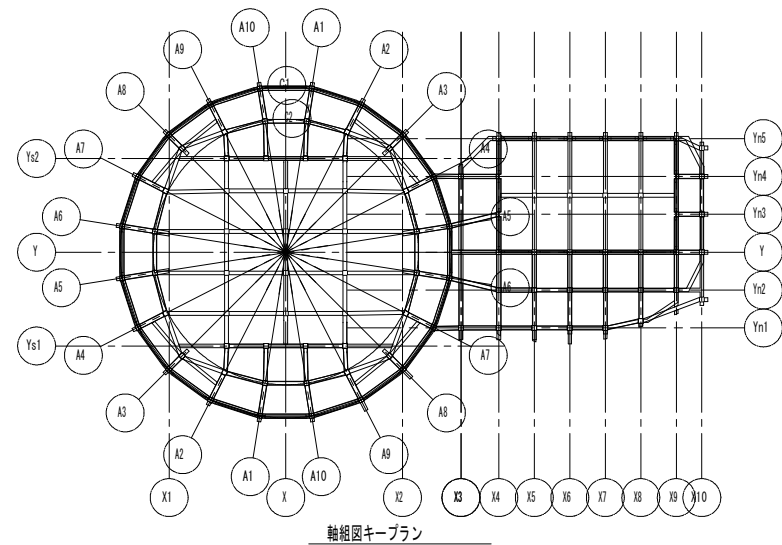
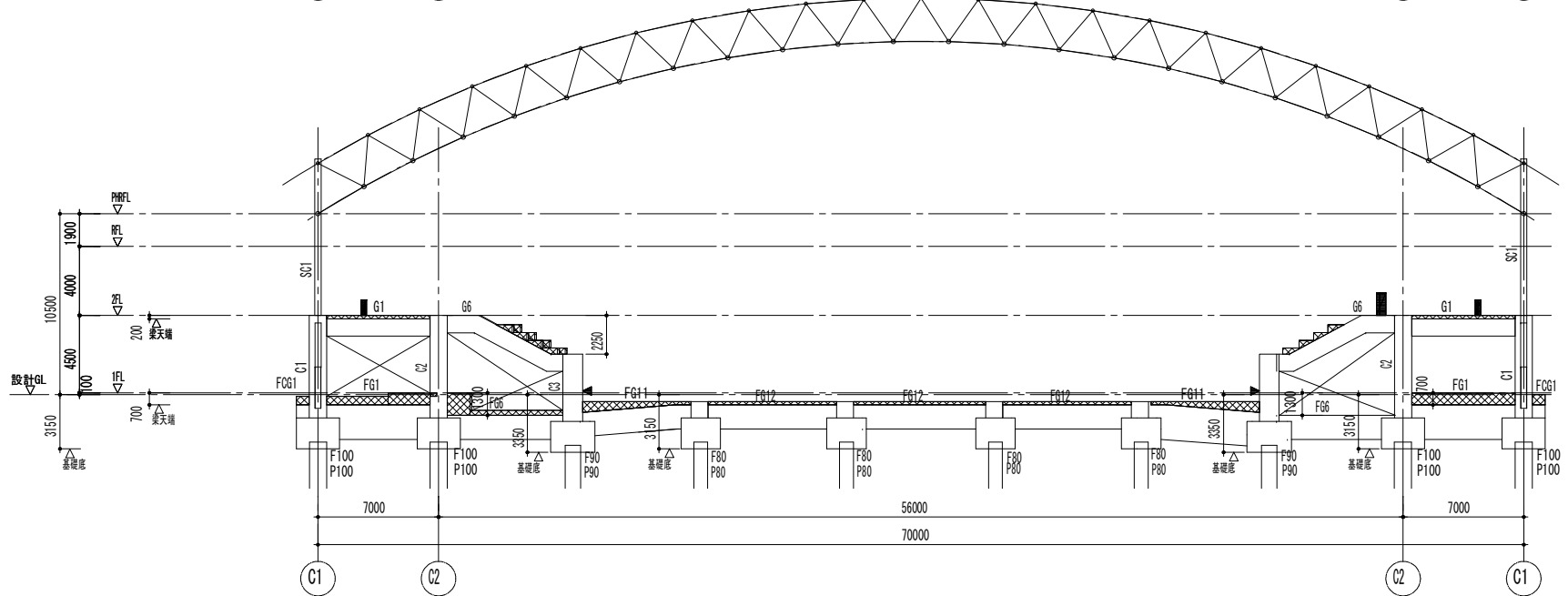
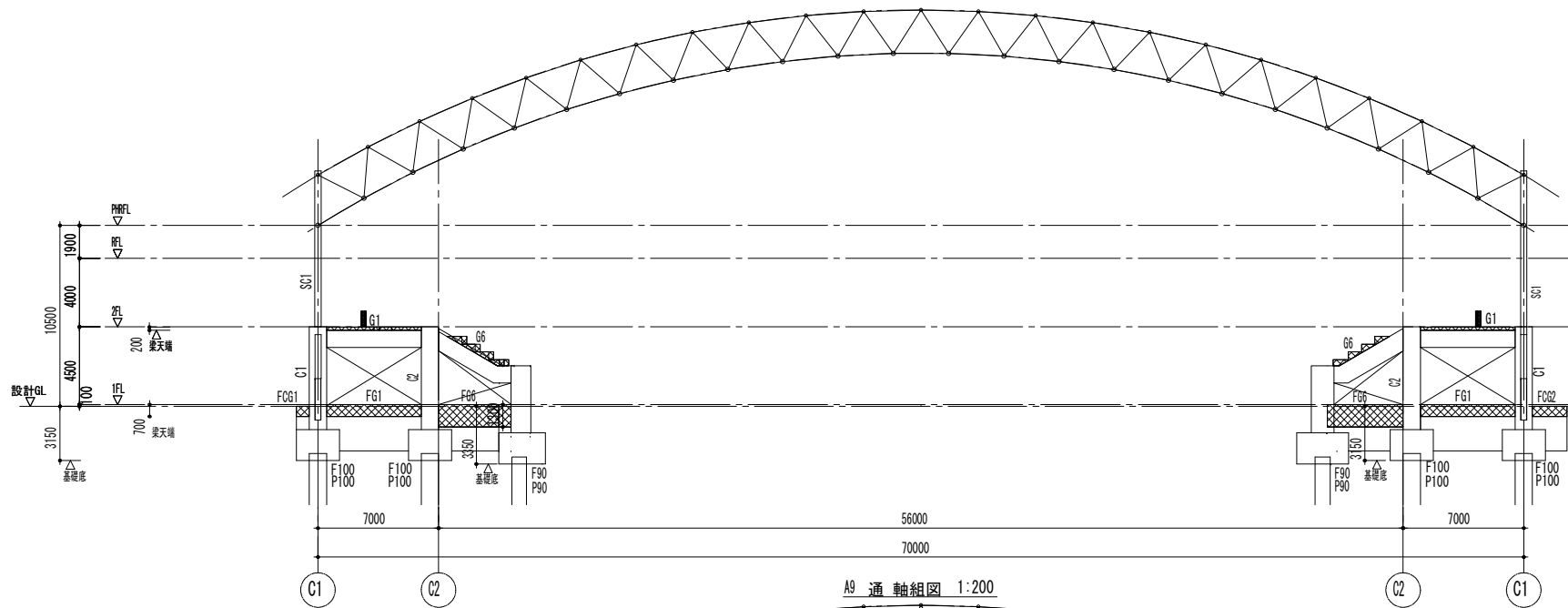
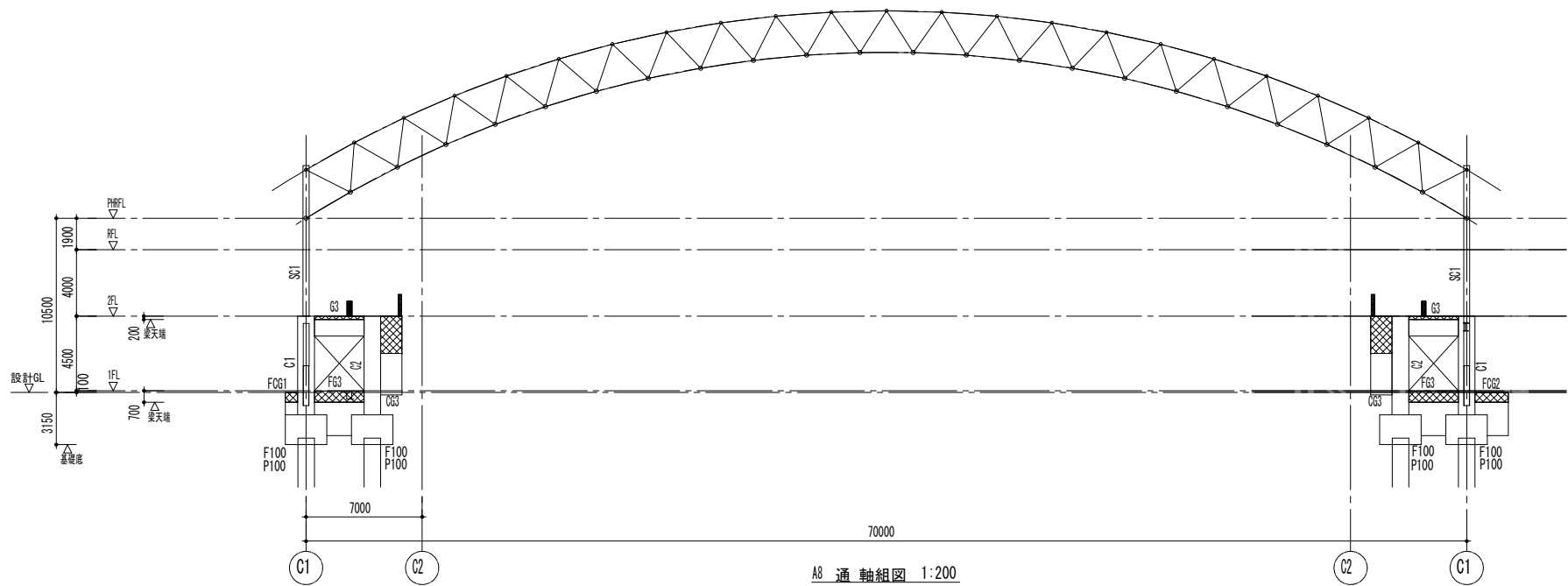
- ・ 柱節割については、施工条件等によって監理者の承認の上、最終決定するものとする。
- ・ 通しダイヤフラムはSN490C (t>40)はTMGP鋼、大臣認定品)とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- ・ はコンクリート打増しを示す。
- ・ 印は構造スリットを示す。

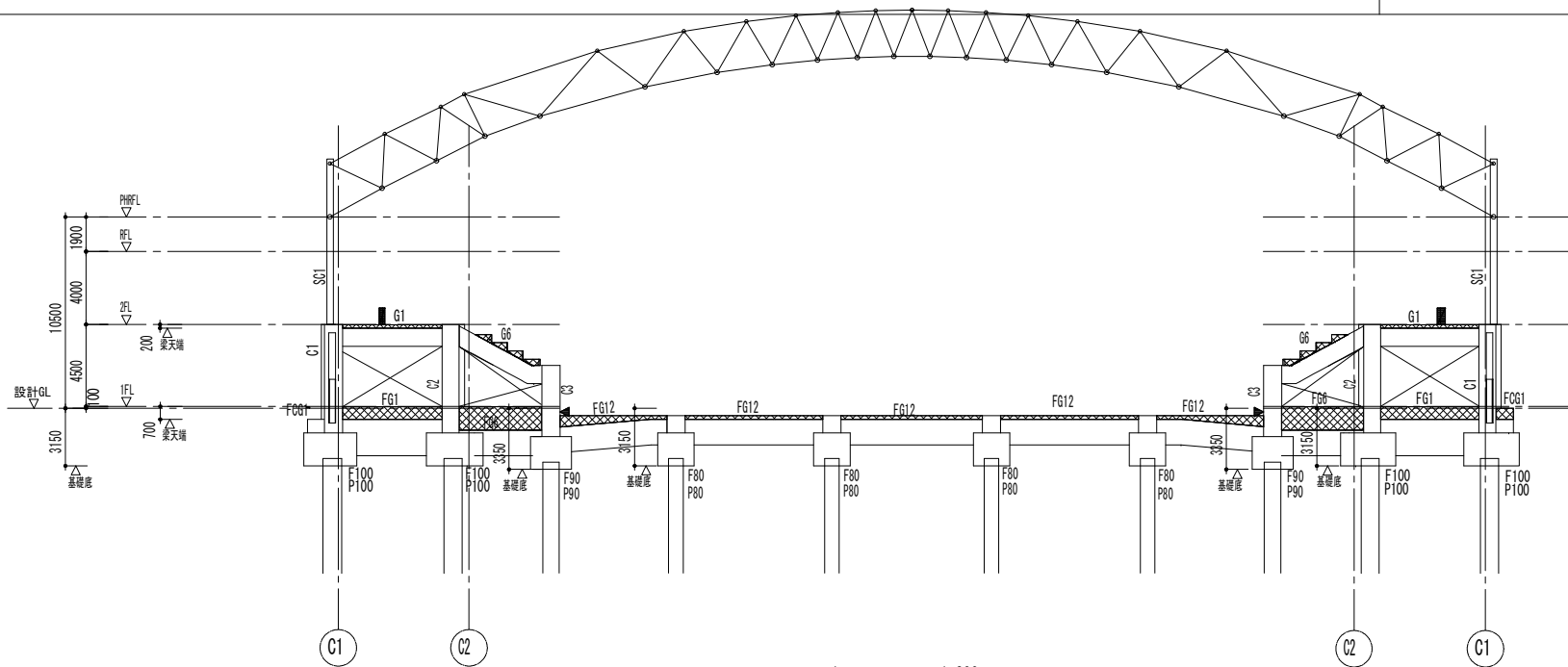
<代表設計者>
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭

<構造設計者>
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

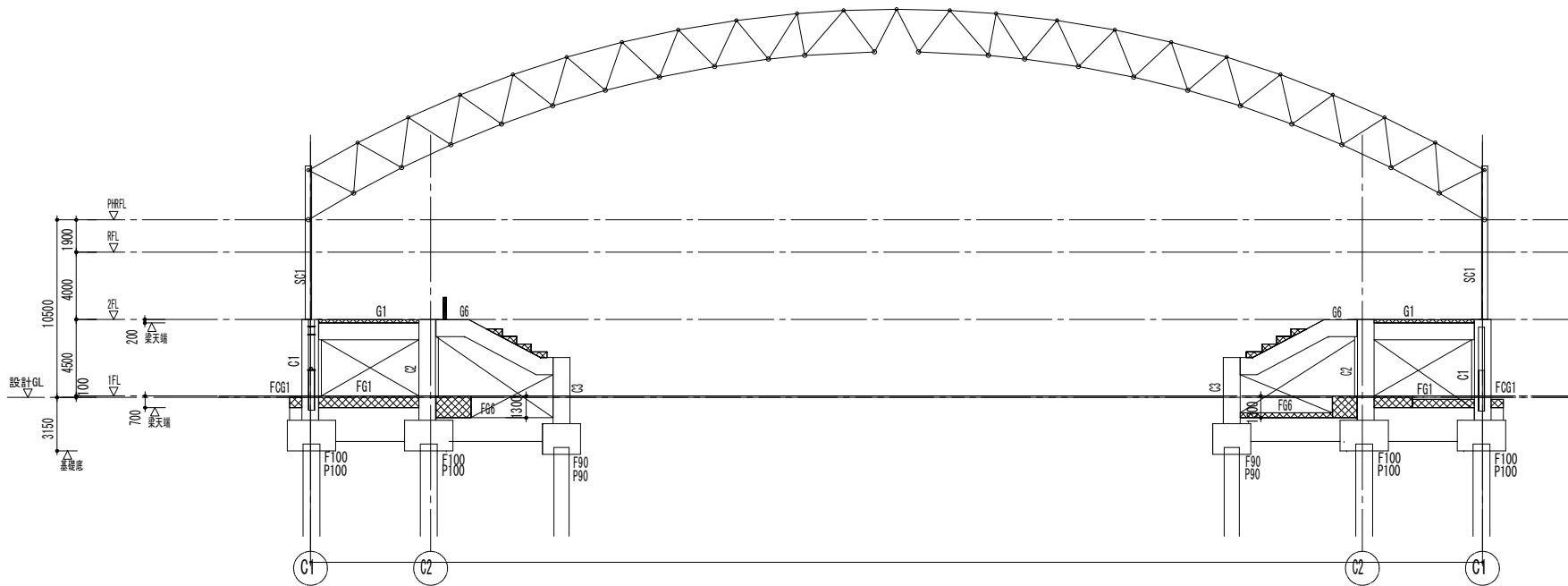
06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S	建築工事	最終版	2024年12月
34	軸組図 (4)	S=1:200 (A1) S=1:400 (A3)	
	株式会社 柴建築設計事務所		

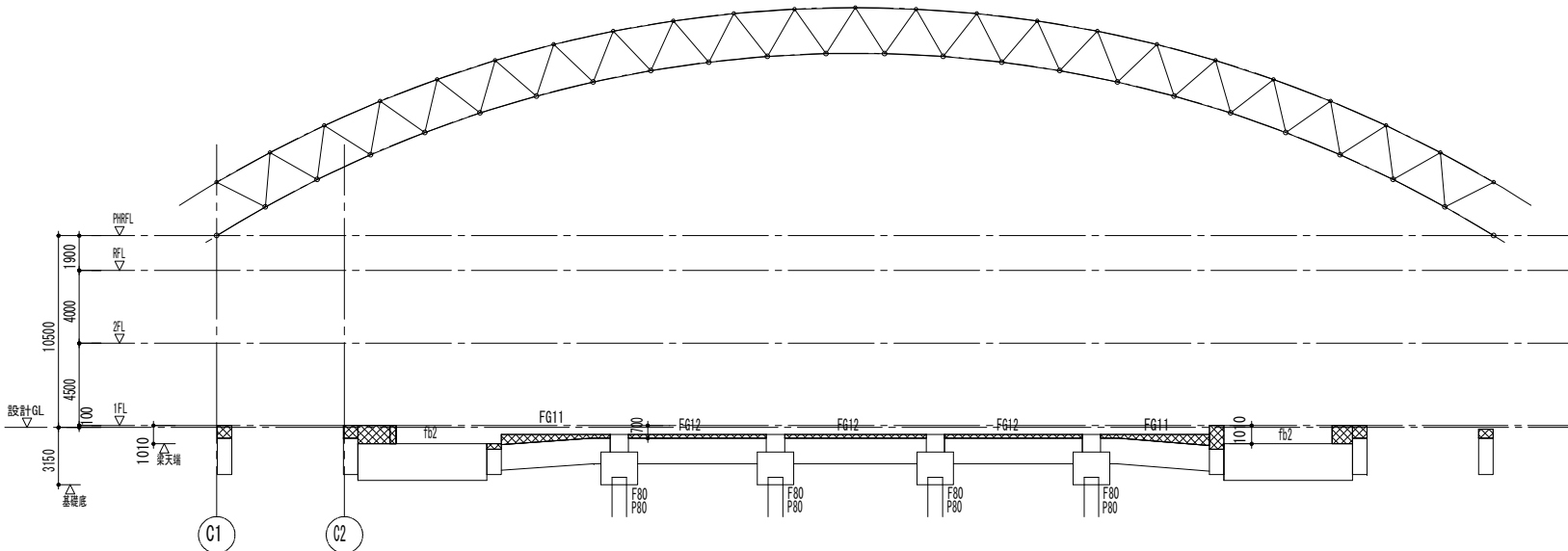




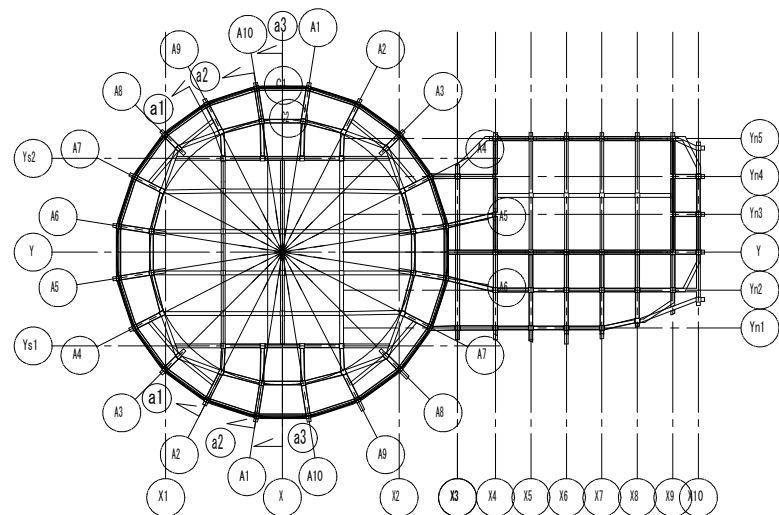
a1 通 軸組図 1:200



a2 通 軸組図 1:200



a3 通 軸組図 1:200



軸組図キープラン

共通事項 (特記なき限り)

- ・ < J印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。
- ・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。
- ・ 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
- ・ 主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
- ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
- ・ また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。

- ・ 柱節割については、施工条件等によって管理者の承認の上、最終決定するものとする。
- ・ 通しダイヤフラムはSN490C (t>40)はTMC鋼、大臣認定品)とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- ・ 印はコンクリート打増しを示す。
- ・ ▲印は構造スリットを示す。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

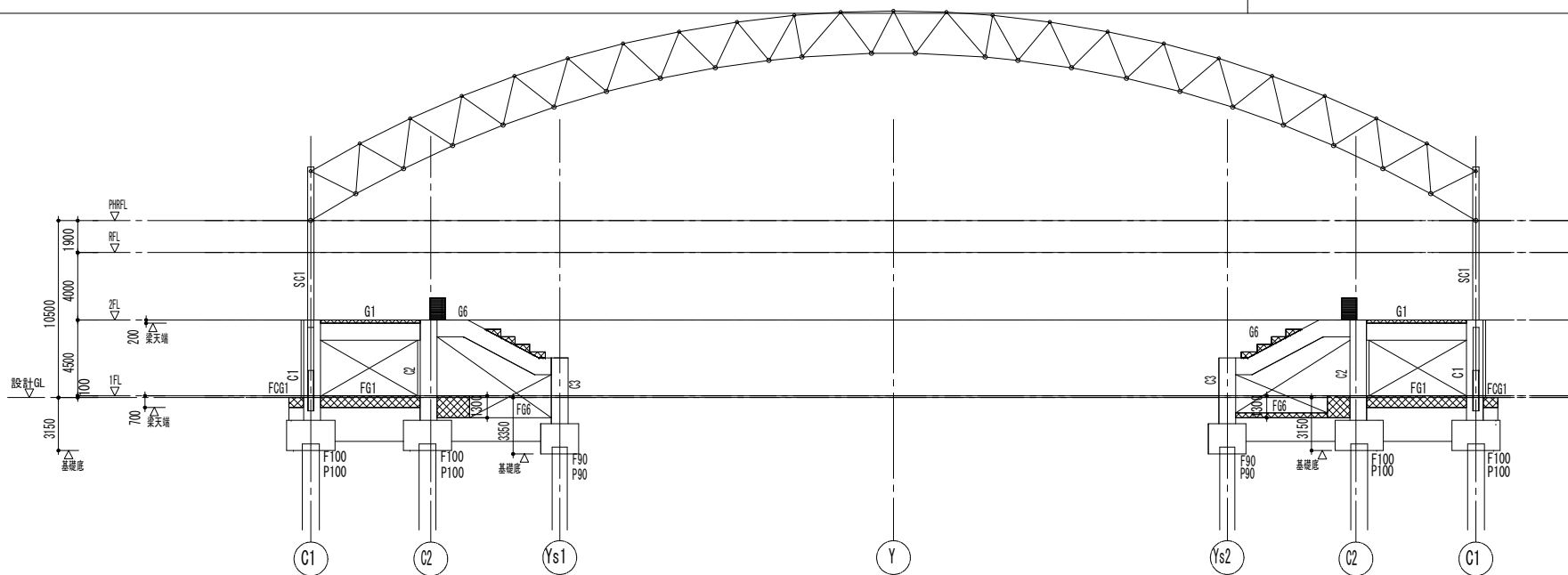
06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

§ 建築工事

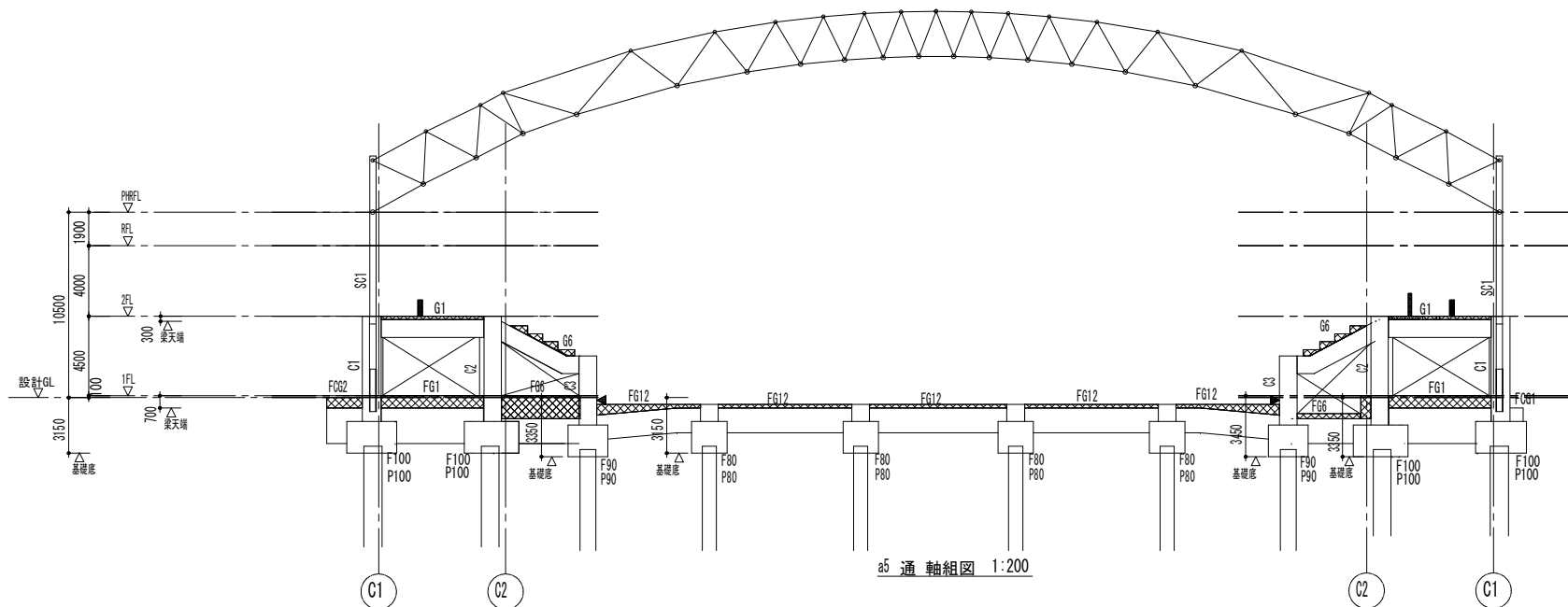
36 軸組図 (6)

株式会社 柴建築設計事務所

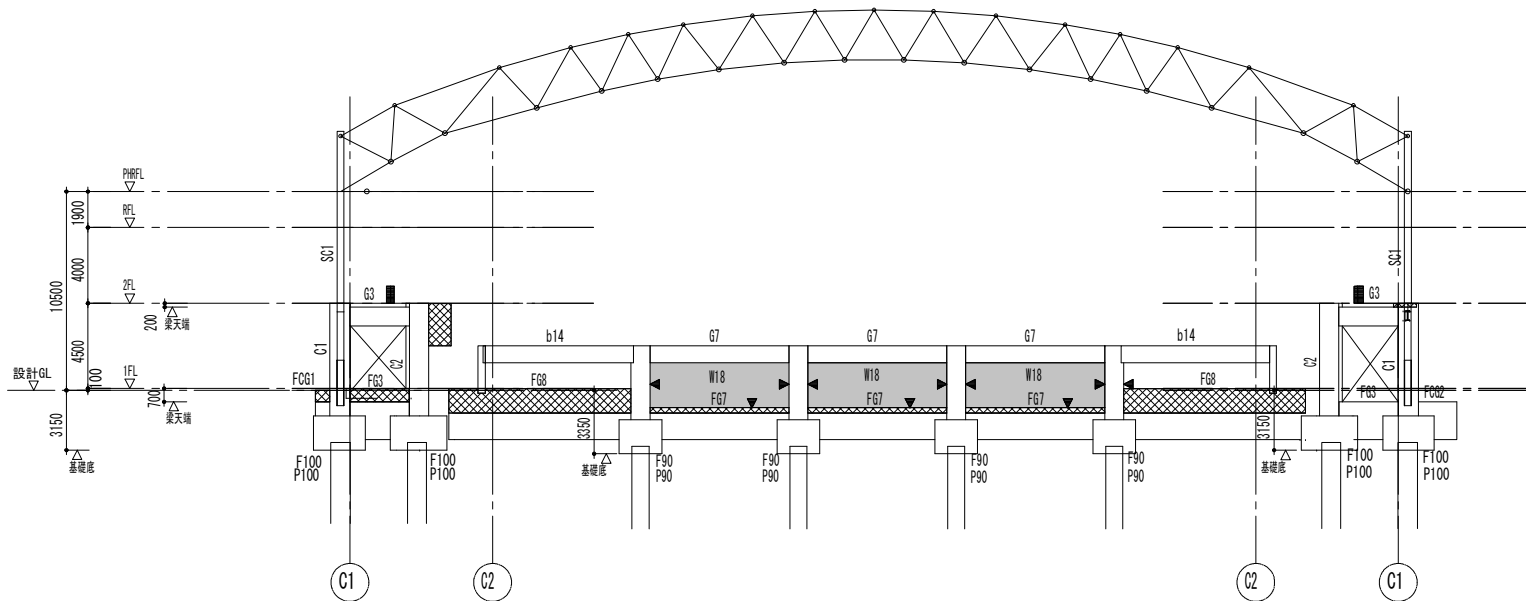
最終版 2024年12月



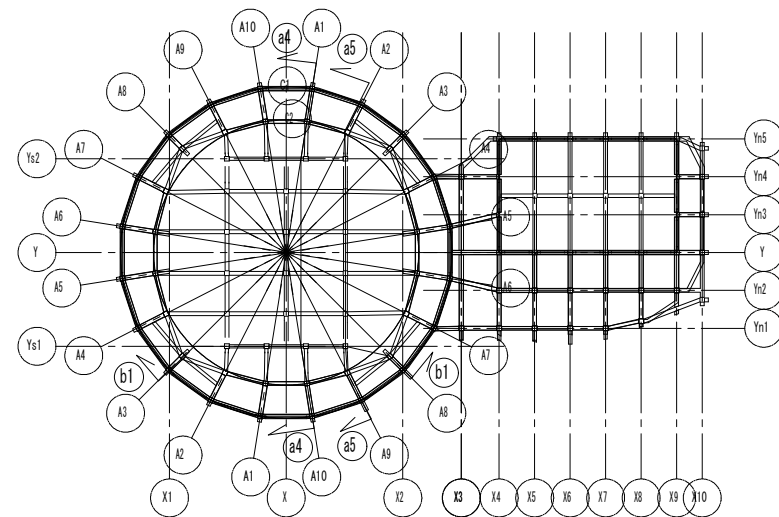
a4 通 軸組図 1:200



a5 通 軸組図 1:200



b1 通 軸組図 1:200



軸組図キープラン

共通事項 (特記なき限り)

- ・ < J印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。
- ・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。
- ・ 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
- ・ 主体架横柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
- ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
- ・ また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。

- ・ 柱部割については、施工条件等によって監理者の承諾の上、最終決定するものとする。
- ・ 通しダイヤフラムはSN490C (t>40)はTMCP鋼、大臣認定品)とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- ・ はコンクリート打増しを示す。
- ・ 印は構造スリットを示す。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事
S 建築工事
37 軸組図 (7)
株式会社 柴建築設計事務所

最終版 2024年12月

- 共通事項（特記なき限り）

- ・ Δ J1は現場継手位置を示す。WJ1は現場溶接位置を示す。
 - ・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。
 - ・ 間柱等二次部材 BPL 下端は、梁、スラブ天端+30 とする。
 - ・ 主体系梁柱BPL 下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
 - ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
- また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラムとする。

- ・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。

- ・ 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
- ・ 主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。

- ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を
内ダイヤフラム とする。

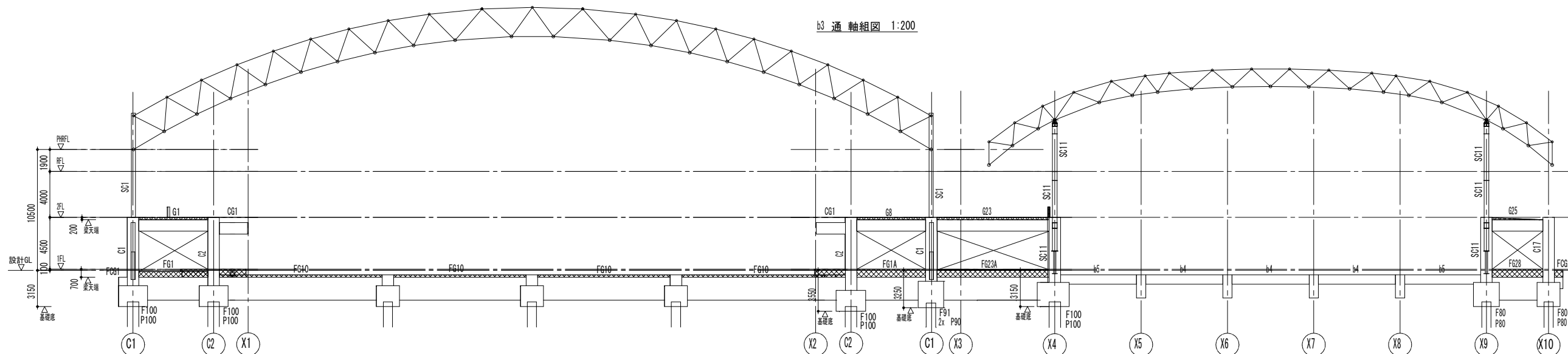
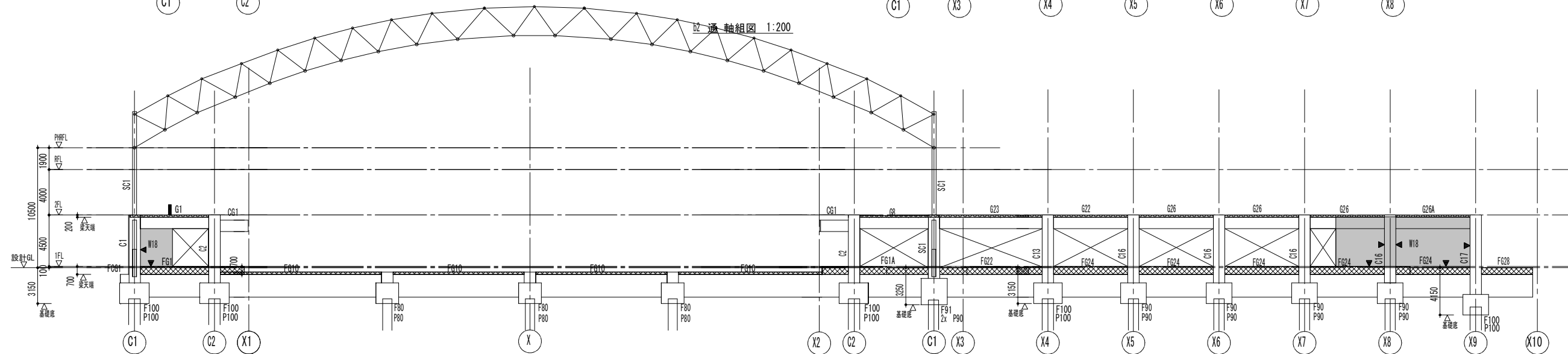
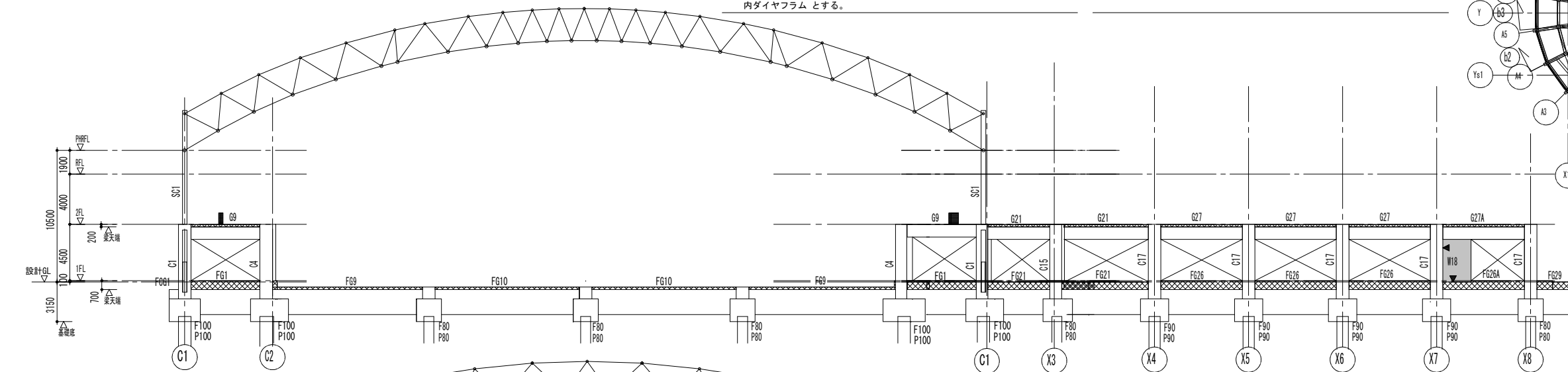
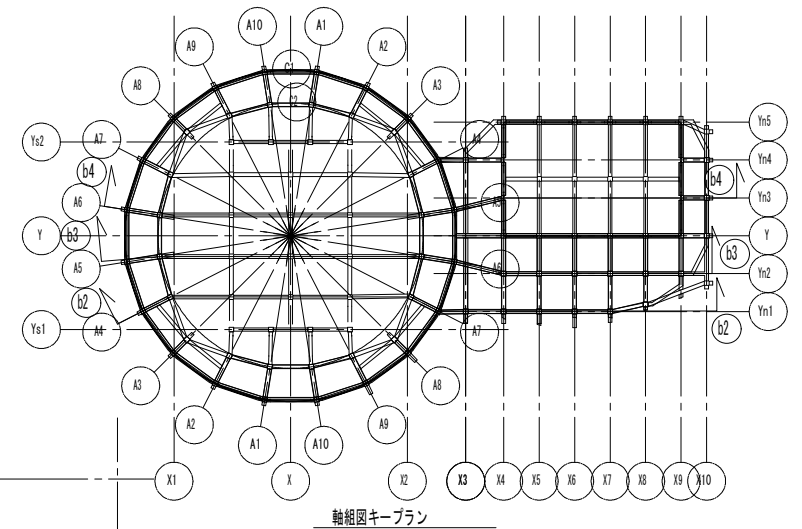
- ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を
内ダイヤフラム とする。

- ・ 柱筋割については、施工条件等によって監理者の承諾の上、最終決定するものとする。

- 通しダイアフラムはSN490C (t>40はTMCP鋼、大臣認定品)
とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。

- ・ 印はコンクリート打増しを示す。

- ▲印は構造スリットを示す。



〈代表設計者〉
一級建築士 大臣登録 第52731号

〈構造設計者〉
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

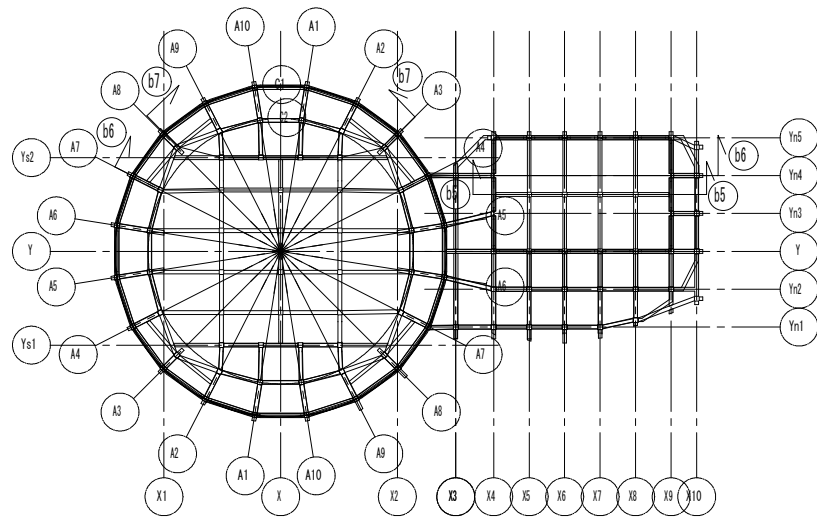
§	建築工事
---	------

38 軸組図(8)

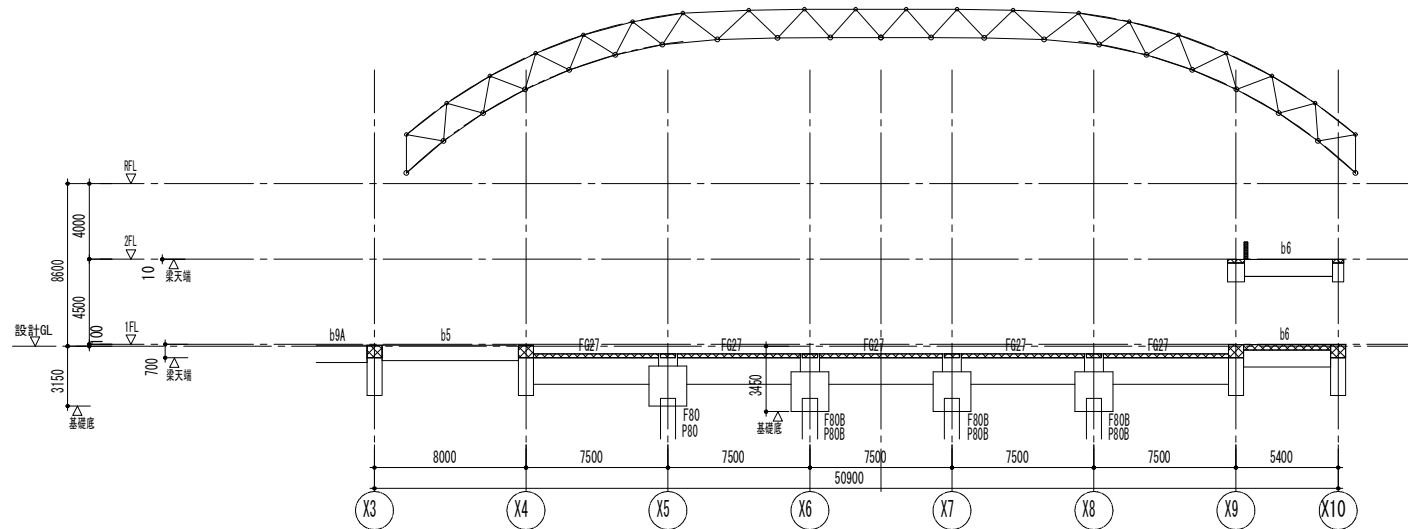
株式会社 柴建築設計事務所

最終版 2024年12月

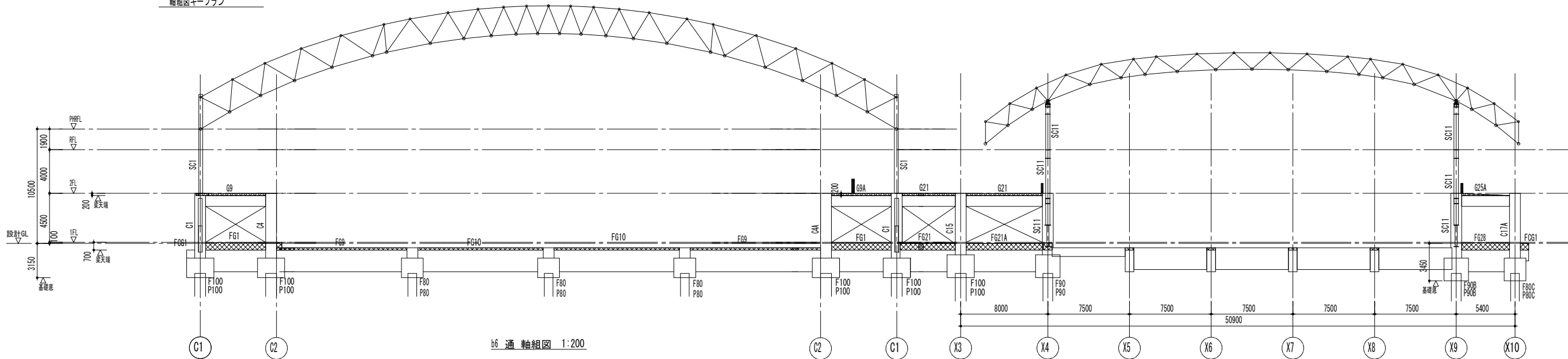
S=1:200 (A1)
S=1:400 (A3)



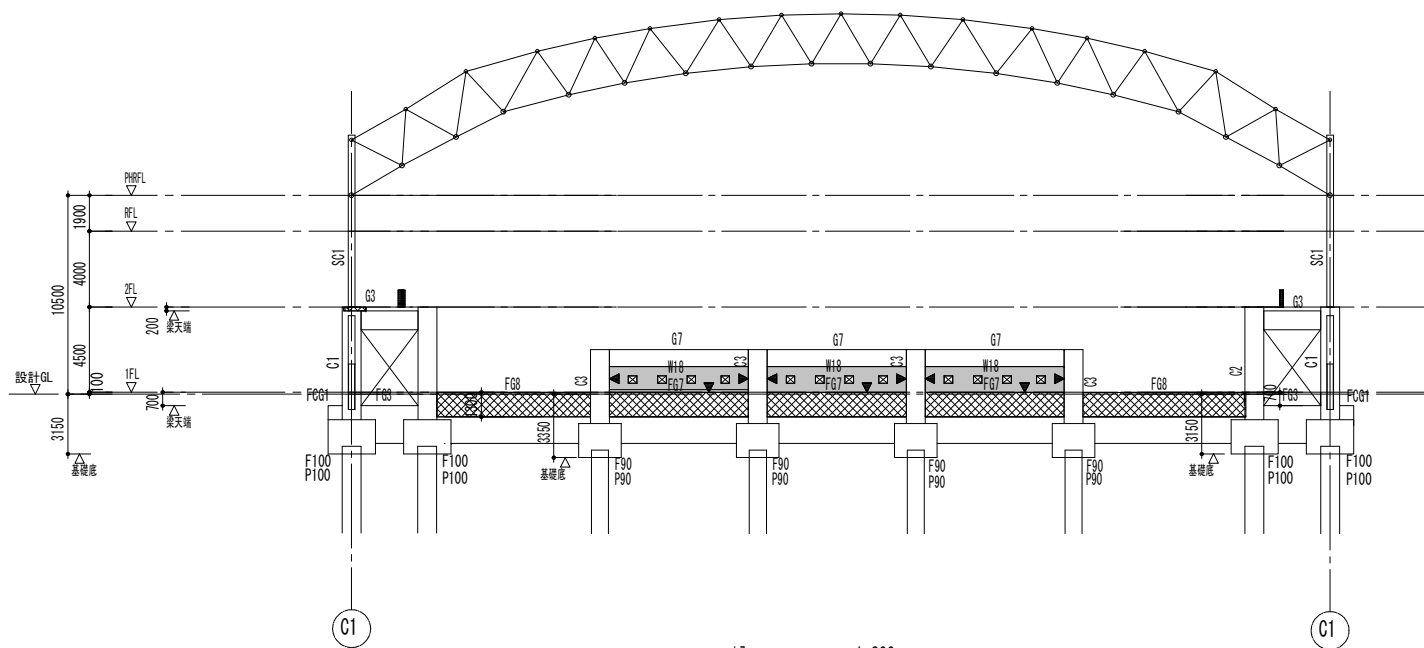
軸組図キープラン



b5 通 軸組図 1:200



b6 通 軸組図 1:200



b7 通 軸組図 1:200

共通事項 (特記なき限り)

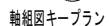
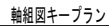
- ・ < J印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。
- ・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。
- ・ 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
- ・ 主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
- ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
- また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。

- ・ 柱節割については、施工条件等によって監理者の承認の上、最終決定するものとする。
- ・ 通しダイヤフラムはSN490C (t=40)はTMCOP鋼、大臣認定品)とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- ・ 印はコンクリート打増しを示す。
- ・ 印は構造スリットを示す。

<代表設計者>
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
<構造設計者>
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

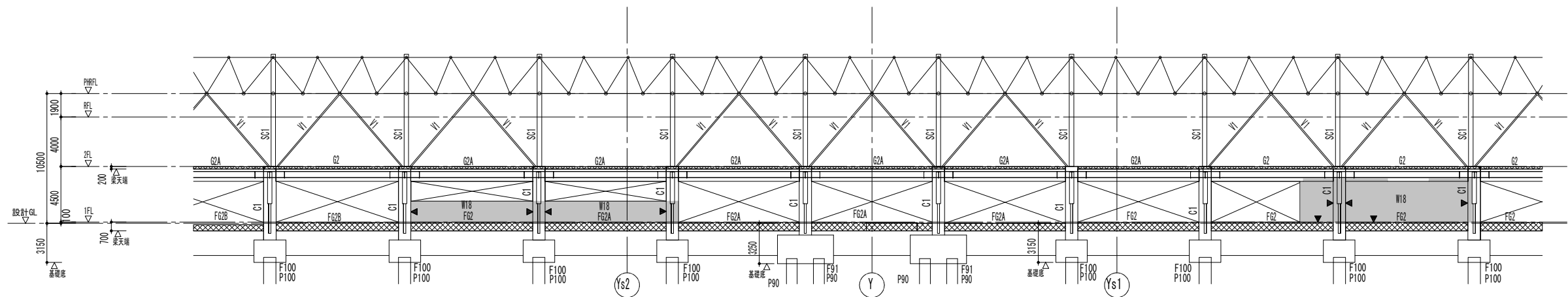
06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S	建築工事	最終版	2024年12月
09	軸組図 (9)	S=1:200 (A1) S=1:400 (A3)	
	株式会社 柴建築設計事務所		

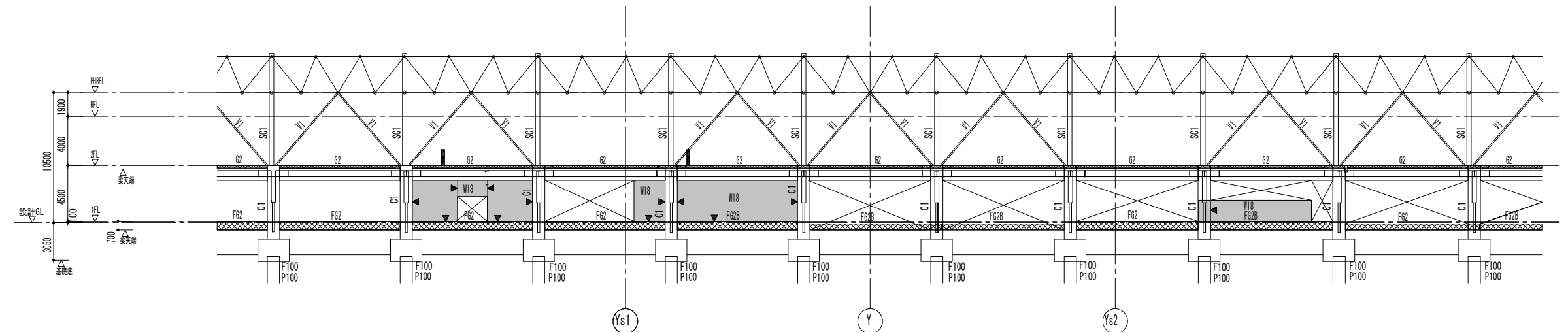


・ ▲印は構造スリットを示す

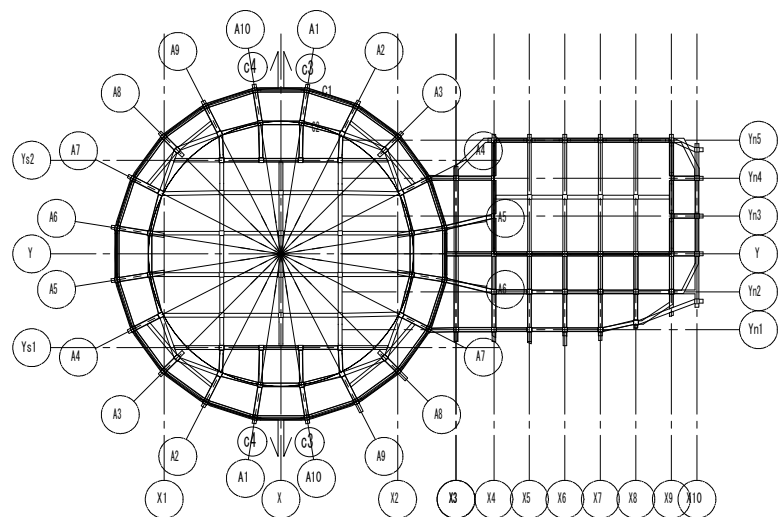
<代表設計者> 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事	
<構造設計者> 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一		§ 40	建築工事 軸組図(10) 株式会社 柴建築設計事務所
		最終版	2024年12月



c3 通 軸組図 1:200



c4 通 軸組図 1:200



軸組図キーplan

共通事項 (特記なき限り)

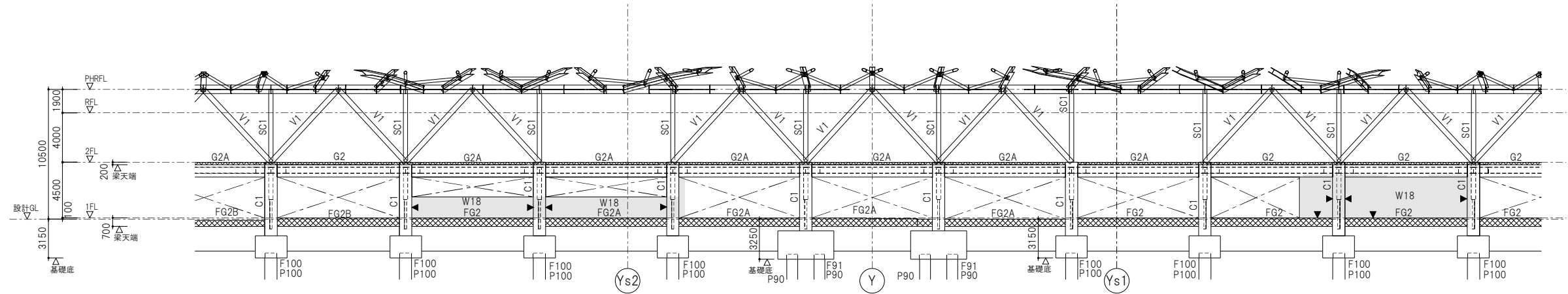
- ・ < J 印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。
 - ・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。
 - ・ 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
 - ・ 主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
 - ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。
- また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。

- ・ 柱節割については、施工条件等によって監理者の承認の上、最終決定するものとする。
- ・ 通しダイヤフラムはSM490C (t>40はTMCP鋼、大臣認定品) とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- ・ 印はコンクリート打増しを示す。
- ・ ▲印は構造スリットを示す。

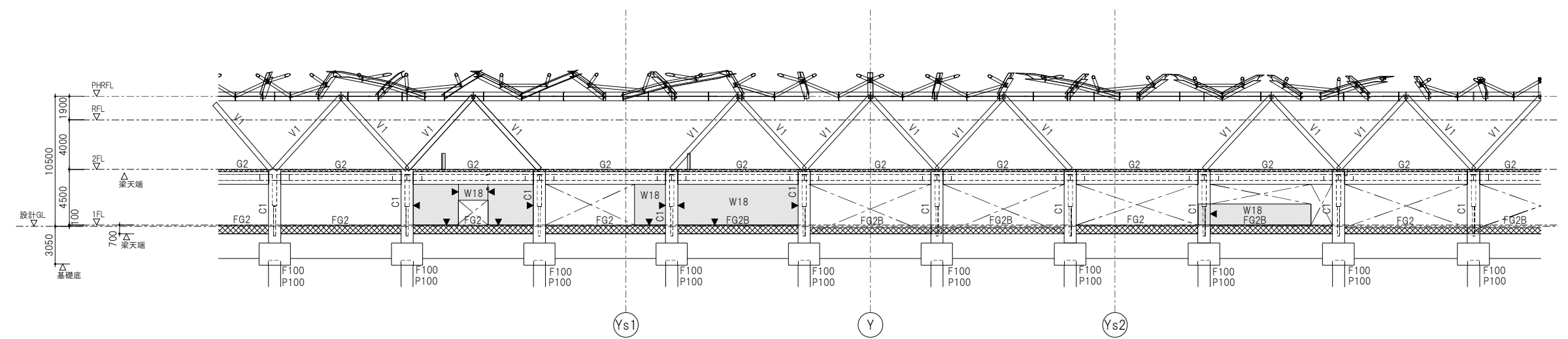
<代表設計者>
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
<構造設計者>
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

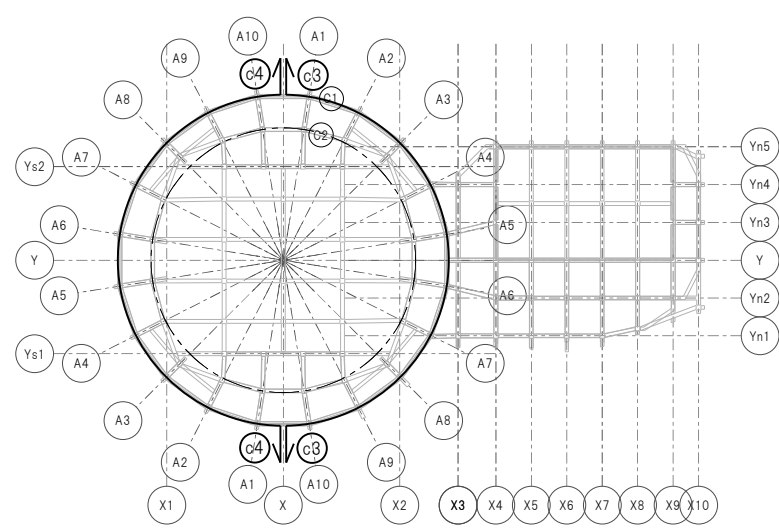
§	建築工事	最終版	2024年12月
41	軸組図 (11)		
	株式会社 柴建築設計事務所		



c3 通 軸組図 1:200



c4 通 軸組図 1:200



共通事項（特記なき限り）

- ・ J印は現場継手位置を示す。WJ印は現場溶接位置を示す。
- ・ BPL下端は 基礎梁天端+50 とする。
- ・ 間柱等二次部材 BPL下端 は、梁・スラブ天端+30 とする。
- ・ 主体架構柱BPL下端レベルと梁天端にレベル差がある場合は打増しを行うものとする。
- ・ 柱・梁仕口部において、ダイヤフラムは 原則3枚以下 とする。

また、ダイヤフラム枚数が2枚を超える場合は、そのうち最低1枚を内ダイヤフラム とする。

- ・ 柱節割については、施工条件等によって監理者の承諾の上、最終決定するものとする。
- ・ 通しダイヤフラムはSN490C (t>40はTMCP鋼、大臣認定品)とし、板厚は柱板厚以上かつ梁フランジの2サイズアップ以上とする。
- ・ 印はコンクリート打増しを示す。
- ・ ▲ 印は構造スリットを示す。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事			
S	建築工事	最終版	2024年12月
41	軸組図(11)		
株式会社 柴建築設計事務所			

杭リスト		共通事項（特記なき限り）									
		・ 使用材料は、杭コンクリート：Fc85・Fc105、SC杭調管：SKK490									
		継手：無溶接継手（継手低減率0%のものを用いること。また、引抜き力が									
		生じる杭符号はT付きで示しており、引張方向の継手低減率も含めて0%の									
		ものを用いること。）									
		・ 施工法は プレボーリング拡大杭工法 とする。									
		・ 施工に先立ち施工計画書を提出し 監理者の確認を得ること。									
		・ 杭頭め球根部 未固結資料採取要領									
		認定構法上、杭先端の水平方向拡大率は1.0とし、支持層へ着可能であることを原則とする。									

支持層にて杭頭め球根部築造後、未固結試料を採取し、圧縮強度試験を行う。
所定の強度発現を確認の後、試験を行うこと。
(1) 資料採取は本杭とは別孔により行い、位置は設計図による。
(2) 試験数は1か所とする。
(3) 杭頭め球根部の強度は杭支持力以上となることを確認すること。
・ 支持層の確認方法
支持層の確認：原則、オーガー駆動装置の電流値変化を積分電流計等により計測する。

杭頭め球根部の確認：支持層杭頭め部付近におけるピット拡直径を確認する。
拡直径の確認は管理装置により油量や油圧により全数実施する。
管理記録データや写真を報告書にまとめ、監理者に提出すること。
杭頭め部の仕様：認定条件のもと、指定強度を確保できるものとする。
水セメント比の上限は60%とする。
流量計等により、杭頭め液の注入量の確認を全数実施する。
管理記録データや写真を報告書にまとめ、監理者に提出すること。

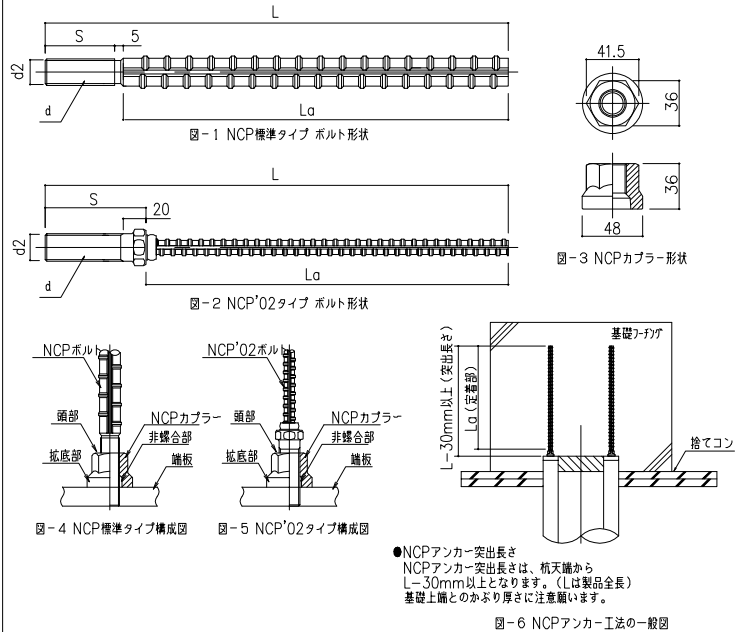
符 号		P70	P71	P80	P90	P100	P90A	P80B	P90B	P80C	P90C	P100B	P90D
上杭	杭径（mm）	700	700	800	900	1000	900	800	900	800	900	1000	900
	杭種	CPRC杭 （Ⅲ種、Fc105）	CPRC杭 （Ⅰ種、Fc105）	CPRC杭 （Ⅲ種、Fc105）	CPRC杭 （Ⅲ種、Fc105）	CPRC杭 （Ⅲ種、Fc105）	SC杭（t=12、SKK490） （Fc105）	SC杭（t=12、SKK490） （Fc105）	SC杭（t=12、SKK490） （Fc105）	SC杭（t=12、SKK490） （Fc105）	SC杭（t=12、SKK490） （Fc105）	SC杭（t=14、SKK490） （Fc105）	SC杭（t=12、SKK490） （Fc105）
	杭長（m）	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
中杭	杭径（mm）	700	700	800	900	1000	900	800	900	800	900	1000	907090
	杭種	PHC杭 （B種、Fc105）	PHC杭 （B種、Fc105）	PHC杭 （B種、Fc105）	PHC杭 （B種、Fc105）	PHC杭 （B種、Fc105）	PHC杭 （C種、Fc105）	PHC杭 （C種、Fc105）	PHC杭 （C種、Fc105）	PHC杭 （C種、Fc105）	PHC杭 （B種、Fc85）	PHC杭 （B種、Fc105）	節付きPHC杭 （C種、Fc105）
	杭長（m）	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	7.0	7.0	7.0	7.0	10.0	7.0	12.0
下杭	杭径（mm）	700	700	806080	907090	10080100	907090	806080	907090	806080	900	1000	—
	杭種	PHC杭 （A種、Fc85）	PHC杭 （A種、Fc85）	節付きPHC杭 （A種、Fc105）	節付きPHC杭 （A種、Fc105）	節付きPHC杭 （A種、Fc105）	節付きPHC杭 （B種、Fc105）	節付きPHC杭 （B種、Fc105）	節付きPHC杭 （B種、Fc105）	節付きPHC杭 （B種、Fc105）	PHC杭 （A種、Fc85）	PHC杭 （A種、Fc85）	—
	杭長（m）	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	8.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	—
杭総長（m）		30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	23.0	27.0	27.0	27.0	30.0	27.0	20.0
杭頭補強筋		NCPアンカー 12-D25（SD345）	NCPアンカー 12-D25（SD345）	NCPアンカー 16-D25（SD345）	NCPアンカー 16-D25（SD345）	NCPアンカー 16-D25（SD345）	クラウンパイル 8-D38	クラウンパイル 8-D38	クラウンパイル 8-D38	クラウンパイル 8-D38	クラウンパイル 8-D38	クラウンパイル 8-D32	クラウンパイル 8-D38
α		300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
長期支持力（kN）		1900	1900	2900	3600	4550	3600	2900	3600	2900	3100	3900	3600
杭本数		杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による	杭伏図による
埋込み長（mm）		400	400	400	400	400	700	700	700	700	700	700	700

NCPアンカー工法

1.NCPアンカー工法概要

NCPアンカー工法は、既製コンクリート杭（PHC杭・PRC杭）の杭頭端部に設けられた縦ねじに、NCPボルトの雄ねじ部を挿合し、かつ、内面に非挿合部（ねじ無し部）を設けたNCPカブラーを雄ねじ部に装着してトルクレンチにより締め付けることにより、杭と基礎フーチングを接合する機械式杭頭接合工法となる。

2.NCPアンカー 部材形状及び構成



クラウンパイルアンカー工法

1. 工法概要

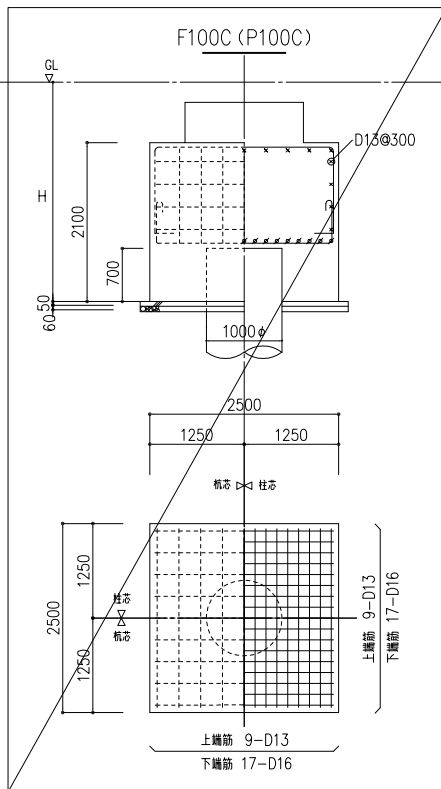
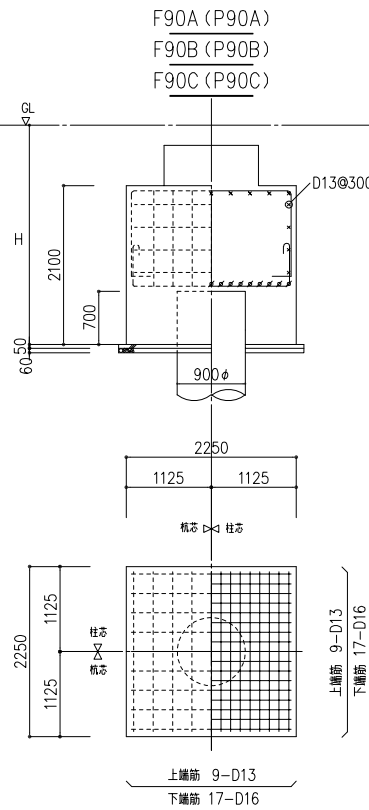
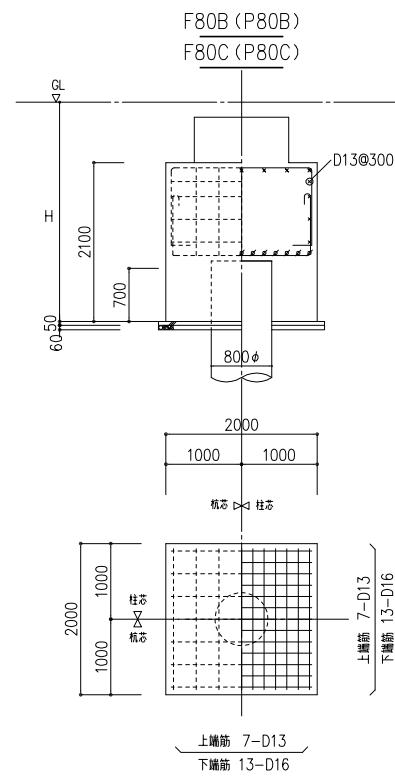
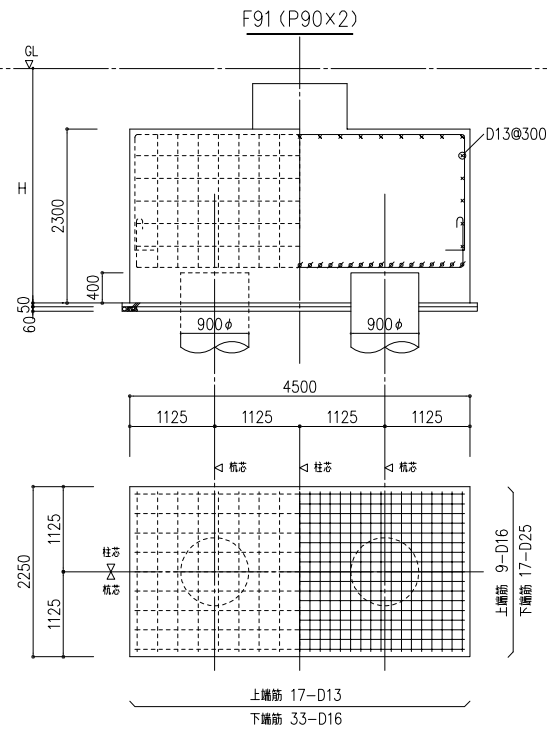
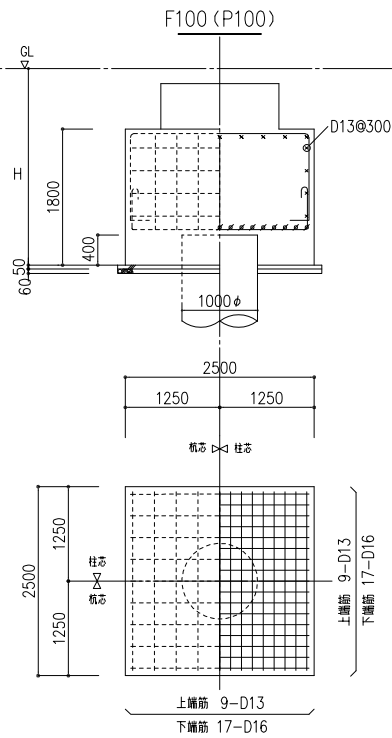
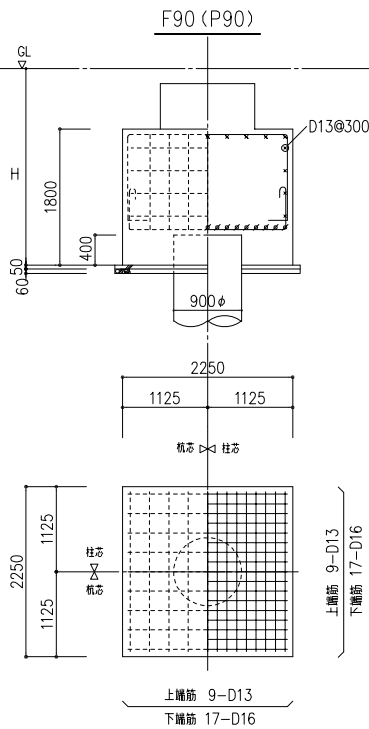
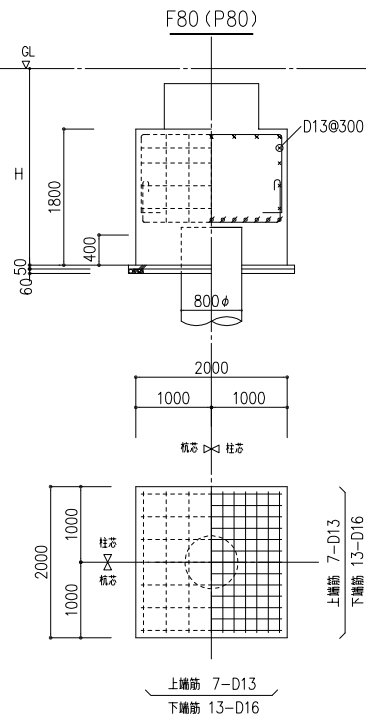
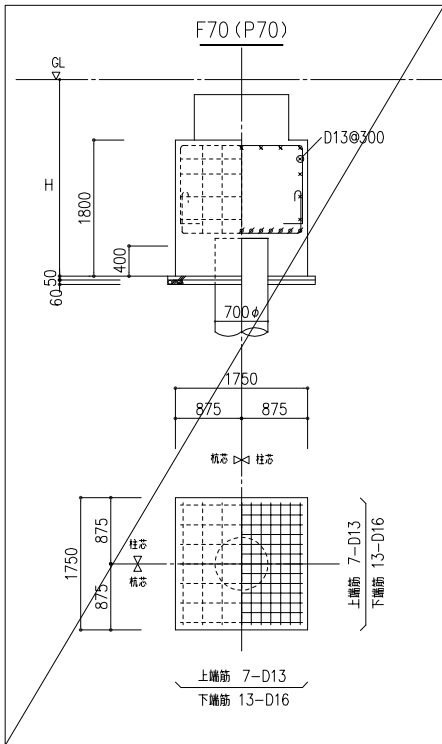
1.1 工法概要

クラウンパイルアンカー工法は、SC 杭の杭頭鋼管外周部に定着部材（以下、杭頭アンカー）を接続する金物（以下、杭頭金物）を部分溶込み溶接した後、杭頭金物のカブラー雄ねじ部に杭頭アンカーのねじ部鉄筋部を挿合することで、杭頭と基礎コンクリートを接合する工法である。基礎コンクリートは杭頭上端面より上部を「主基礎部」、杭のみ込み部周囲を「副基礎部」と呼称し、杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の適用

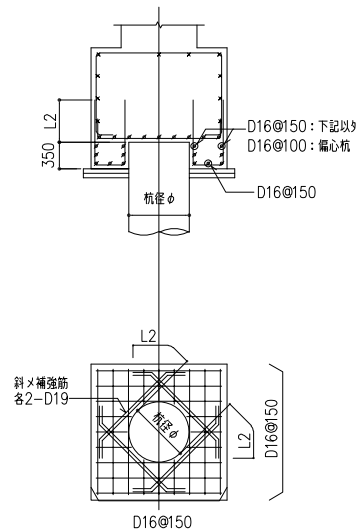
共通事項（特記なき限り）

- 基礎深さHは 杭・基礎伏図 による。
- 基礎下地層は 地コンクリート ⑦50.砕石 ⑦60とする。

鉄筋材質は D10～D16 SD295、D19～D25 SD345 とする。

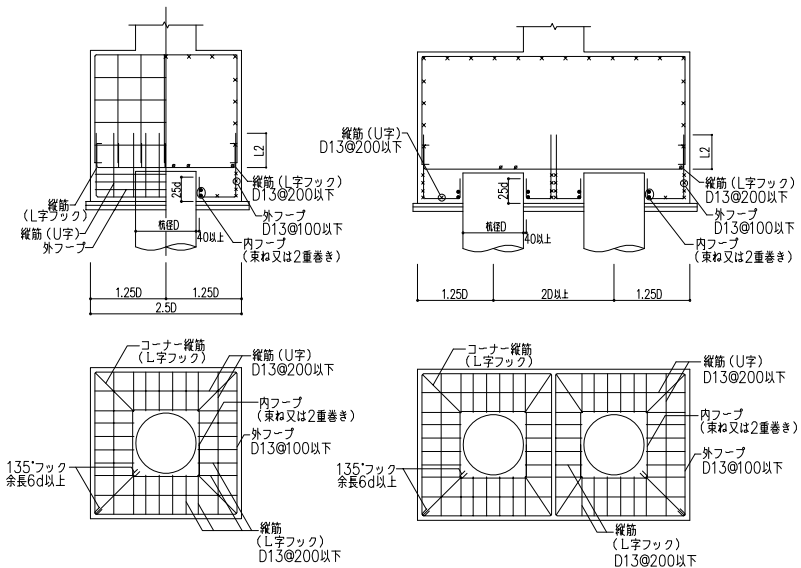


杭頭周辺補強筋要領（SC杭の場合）



杭径700φ～900φ

※へりあきが大きいの関係でタテ筋（U字）が必要なもの



＜代表設計者＞

一級建築士 大臣登録 第52731号

柴 恭

＜構造設計者＞

一級建築士 大臣登録 第178097号

構造設計一級建築士証交付番号 第6499号

酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

S

建築工事

最終版

2024年12月

43

基礎リスト

1:50 (A1)

1:100 (A3)

株式会社 柴建築設計事務所

基礎梁リスト(1) 1:50

共通事項(特記なき限り)
1. 巾止筋は D10@1000 とする。
2. 梁下地盤は 捨てコンクリート ⑦50、砕石 ⑦60とする。
3. 腰筋は、それが接合する部材内に、40d以上アンカーのこと。
4. 2・3段目主筋 カットオフ長さ(LD)は
MAX(リスト内数値、Lo/4+15d)とする。
6. SD295A D16以下、SD345 D19~D25、
SD390 D29~D32

凡 例
スタースラップ 4-D13@200 は
左図 Ⅲ-D13@200 を示す。

階	符 号	FG1 (FG1A)		FG2 (FG2A)		FG3	FG4		FG5	FG6	FG7		FG8	
1階	位 置	C1通り端・中央	C2通り端	端部	中央	全断面	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	FG7端	中央・他端
	断 面													
	B×D	800x2000		800x2000		800x2000	800x2000		800x2000	800x1400	800x1400		800x1400	
	上端筋	6 (9) -D32		6 (9) -D32		4-D32	6-D32		6-D32	11-D32	11-D32		11-D32	8-D32
	下端筋	6 (8) -D32		4-D32		5-D32	4-D32		4-D32	8-D32	8-D32		8-D32	8-D32
	肋 筋	2-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @150	2-D16 @200		4-D16 @150	4-D16 @150	2-D16 @200		2-D16 @200	
	腰 筋	10-D13		10-D13		10-D13	10-D13		10-D13	6-D13	6-D13		6-D13	
	備 考	FG1端:LD=2100 ()内はFG1Aを示す。		()内はFG2Aを示す。										

階	符 号	FG9		FG10		FG11			FG12			FG21 (FG21A)		FG22
1階	位 置	中央・他端	FG10端	端部	中央	Ys1・Ys2通り端	中央	他端	端部	中央		端部 (X4端)	中央	全断面
	断 面													
	B×D	800x2000		800x2000		800x1400			800x1400			800x2000		800x2000
	上端筋	8-D32		11-D32		4-D32			6-D32			7 (8) -D32		9-D32
	下端筋	10-D32		8-D32		6-D32			4-D32			7-D32		6-D32
	肋 筋	2-D16 @200		2-D16 @200		2-D16 @200			2-D16 @200			2-D16 @200		4-D16 @200
	腰 筋	10-D13		10-D13		6-D13			6-D13			10-D13		10-D13
	備 考											FG21 :LD=1600 ()内はFG21Aを示す。		

階	符 号	FG23 (FG23A)		FG24		FG25		FG26 (FG26A)		FG27		FG28	
1階	位 置	C1通り端・中央	X4通り端	端部	中央	X5・X9端	中央、X4・X10端	端部	中央	端部	中央	X9端	中央・他端
	断 面												
	B×D	800x2000		800x2000		800x2000		800x2000		800x1400		800x2000	
	上端筋	4 (9) -D32		6-D32		6-D32		5 (8) -D32		6-D32		7-D32	
	下端筋	8-D32		4-D32		4-D32		4 (5) -D32		4-D32		7-D32	
	肋 筋	2 (4) -D16 @200		2-D16 @200		2-D16 @200		2-D16 @200		2-D16 @200		4-D16 @200	
	腰 筋	10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		6-D13		10-D13	
	備 考	()内はFG23Aを示す。											

＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭 ＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一	06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
	S	建築工事	最終版 2024年12月
	44	基礎梁リスト (1)	1:50 (A1) 1:100 (A3)
		株式会社 柴建築設計事務所	

共通事項(特記なき限り)

1. 巾止筋は D10@1000 とする。
2. 梁下地盤は 1階でコンクリート ⑦ 50、砕石 ⑦ 60とする。

3. 腰筋は、それが接合する部材内に、40d以上アンカーのこと。

4. 2・3段目主筋 カットオフ長さ(LD)は MAX(リスト内数値、 $L_0/4+15d$)とする。

6. SD295A D16以下、SD345 D19~D25、SD390 D29~D32



凡 例
スターラップ 4-D13@200 は
左図 Ⅲ-D13@200 を示す。

階	柱号	FG29		FG31			FG32 (FG32A)		FG33 (FG33A)		FG34		FG35		FG36														
		位置	X8通り端	中央・他端	Yn1・Yn4通り端	中央	他端	端部	中央	端部 (Y通り端)	中央	端部	中央	Yn2通り端	中央・他端	全断面													
1階	断面																												
	B×D	800x2000		800x2000		800x2000		800x2000		800x2000		800x2000		800x2700		800x2700													
	上端筋	9-D32		8-D32		11-D32		8-D32		4-D32		7 (8) -D32		4-D32		8-D32		12-D32											
	下端筋	5-D32		5-D32		7-D32		7-D32		4-D32		7-D32		6-D32		4-D32		6-D32											
	肋筋	4-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @200		2(4)-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @200		4-D16 @200											
	腰筋	10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		14-D13		14-D13											
備考							FG32:LD=2100 ()内はFG32Aを示す。		()内はFG33Aを示す。				LH=4200																

階	符 号	FCG1	FCG2
	位 置	全断面	全断面
1階	断 面		
	B×D	800x1000	800x2000
	上端筋	4-D32	7-D32
	下端筋	4-D32	7-D32
	肋 筋	3-D16 @150	4-D16 @200
	腰 筋	4-D13	10-D13
	備 考		

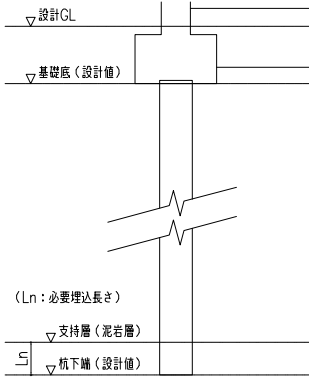
基礎梁リスト共通事項

- 梁主筋位置を示す寸法は、原則として標準寸法を示す。
- 鉄筋のかぶり厚さの確保、芯鉄筋の位置及び施工性の検討を行い、必要に応じて若干の調整を行う。
- 仕上げに応じて 10~20mmの増打を行うこと(表記寸法は躯体寸法を示す)。

X方向(先行梁)	Y方向(後行梁)

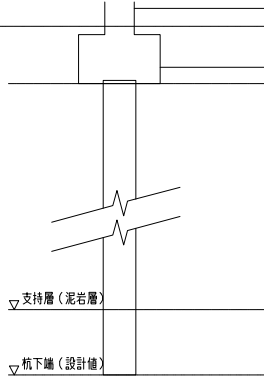
支持層深度の変動に対する対応方針

【設計時点での想定】



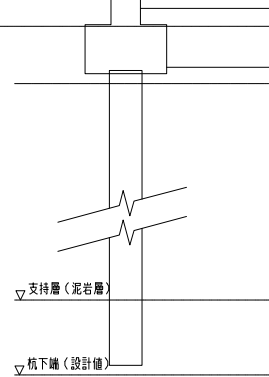
【想定よりも支持層が浅い場合(1)】

支持層を掘削できる場合は、所定の深度まで掘削を行い、設計値の位置にて杭を施工すること。



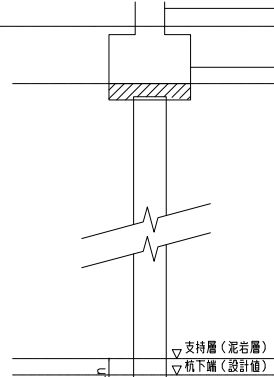
【想定よりも支持層が浅い場合(2)】

支持層の掘削が困難な場合、監理者・設計者の認める範囲で杭先端および基礎底レベルの変更を許可する。それ以上の高さまりが生じた場合は、協議による。



【想定よりも支持層が深い場合】

支持層への掘入れ(=1.0Dp以上)を確保できる深度まで、杭先端レベルを下げるものとする。杭基礎・基礎梁への補強の要否について、監理者・設計者に確認すること。

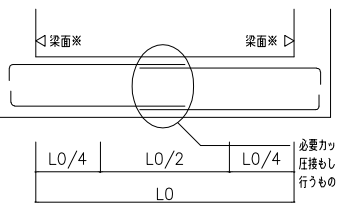


2・3段目配筋カットオフ長さ LDの範囲(基礎梁・大梁共通)

- 中央部配筋が端部配筋よりも多い場合、中央部配筋の範囲($L_0/2+20d$)を優先させるものとする。



※ 柱面・梁面のうち、内法スパンが小さくなる方を示す。

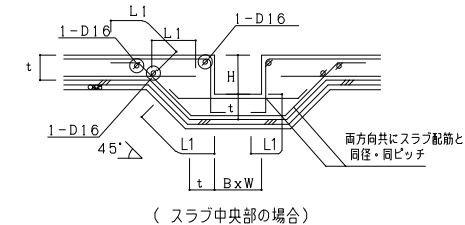


必要カットオフ長さがラップする場合、圧接もしくは機械式継手による接合を行うものとする。(全断面=端部断面)

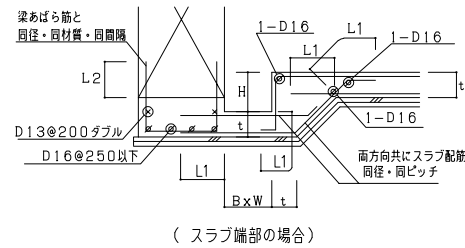
端部・中央区分図(基礎梁・大梁共通)



金場配筋要領図



(スラブ中央部の場合)

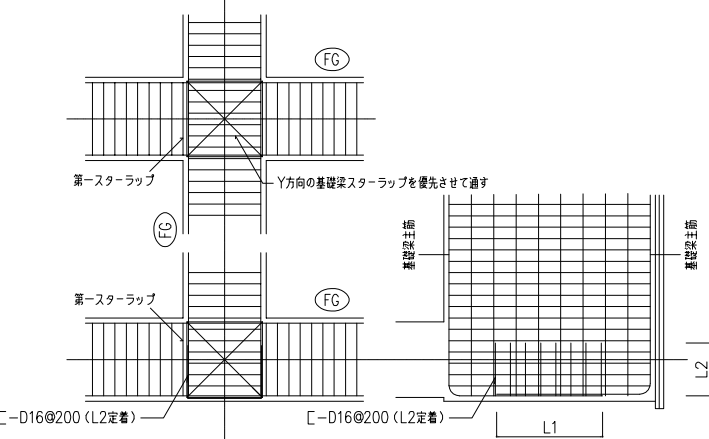


(スラブ端部の場合)

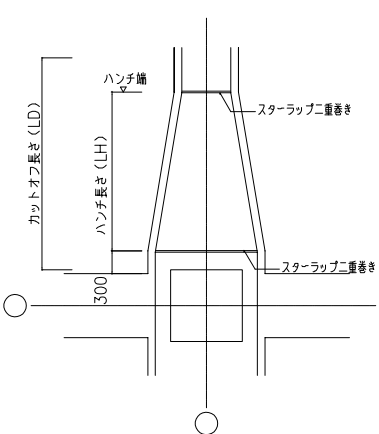
(注)側溝等も下記配筋に準ずる。

基礎梁配筋要領

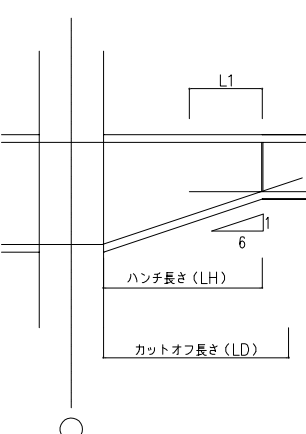
- 基礎梁幅が柱幅より大きい場合



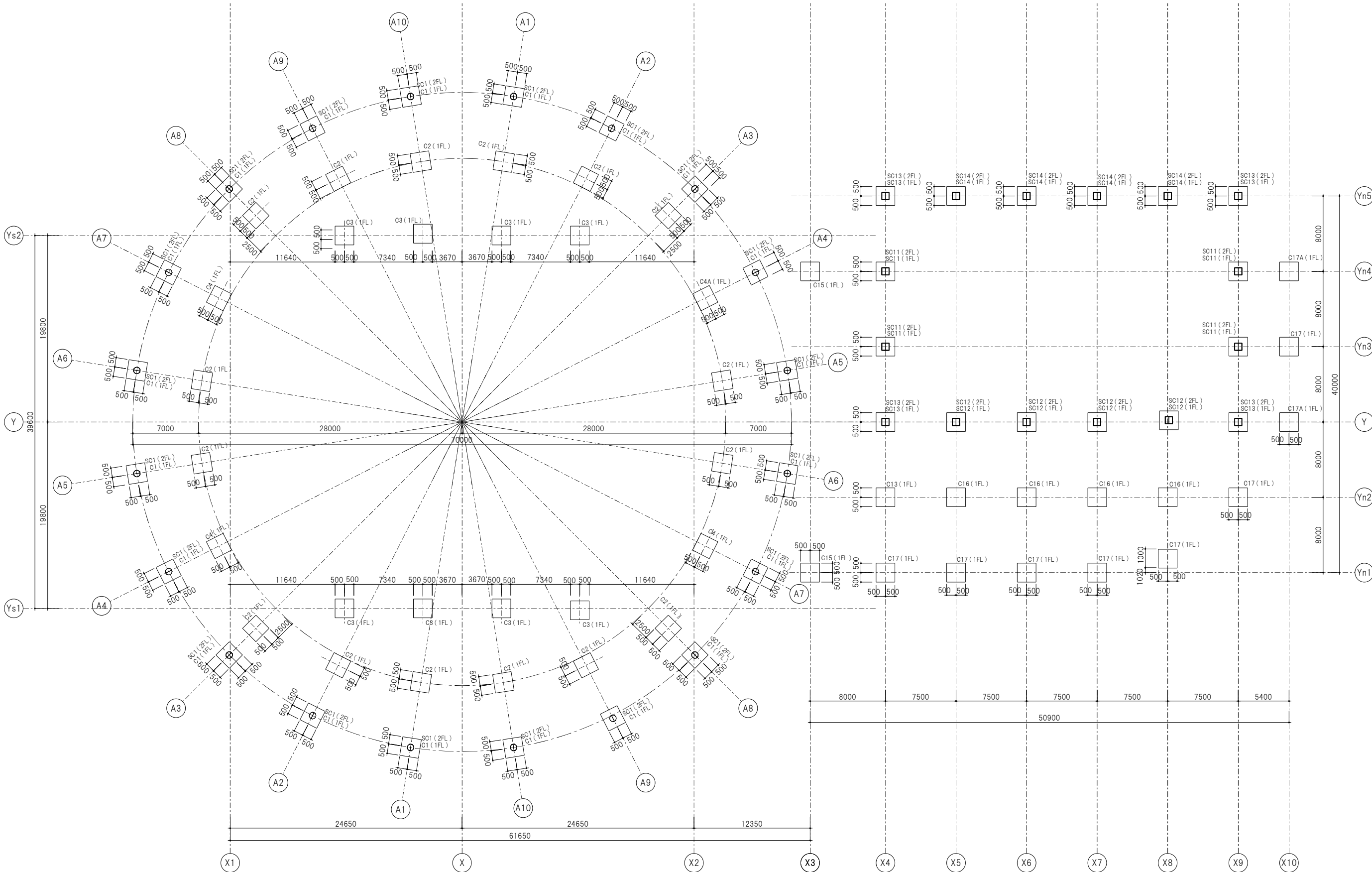
水平ハンチ要領図(基礎梁・大梁共通)



鉛直ハンチ要領図(基礎梁・大梁共通)



＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭	06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事		
＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一	S	建築工事	【最終版】 2024年12月
	45	基礎梁リスト(2)	1:50 (A1) 1:100 (A3)
	株式会社 柴建築設計事務所		



柱芯線図

各階床梁伏図共通事項（東棟）

- ・（ ）内数値は、FLからの壁立上り高さを示す。
- ・＜ ＞内数値は、FLからの梁天端レベルを示す。
- ・印は梁－梁剛接合を示す。
- ・外装受材、内装・ガラス受材は意匠図による。
- ・屋外露出部分は溶融垂鉛メッキを施すものとする。
- ・立上り壁（建物内部・外部）範囲および収縮目地位置は意匠図による。
- ・印はコンクリート打増しを示す。
- ・スラブ符号の方向はスラブ主筋方向を示す。

- ・印は横補剛材（B-TYPE）を示す。
- ・※印は側面プレート貼りとする。
- ・＜J＞印は現場継手位置を示す。
- ・階段部は階段詳細図による。
- ・外装材はスラブ硬化後に取り付けのこと。
- ・建物外部軒天には C-100x50x20x2.3 @450以下 を設置するものとする。

＜代表設計者＞
一級建築士 大臣登録 第52731号
柴 恭
＜構造設計者＞
一級建築士 大臣登録 第178097号
構造設計一級建築士証交付番号 第6499号
酒寄 光一

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事			
S	建築工事	最終版	2024年12月
46	柱芯線図		
株式会社 柴建築設計事務所			

柱脚リスト1:30

共通事項（特記なき限り）

鉄骨材質は SN490B とする。

t>40 は TMCP鋼（大臣認定品）とする。

ベースプレート材質は SN490C（t>40 は TMCP鋼、大臣認定品）とする。

アンカーボルトの材質は SNR400B（JIS B1220 ABR400）とする。L=40d（フック付）、二重ナット締め とする。

TMCP鋼：大臣認定品 の溶接材料および溶接条件は、コラム材 および鋼材の大臣認定等の仕様規定と同様とする。

スタッドジベル仕様

ピッチ：7.5d以上 かつ 600mm 以下、ゲージ：5d以上、および：30mm 以上、はしあき：40mm 以上（鉄骨）、100mm 以上（コンクリート）

鉄骨鉄筋コンクリート柱1:50

鉄筋コンクリート柱リスト1:50

共通事項（特記なき限り）

鉄骨材質は STKN490B とする。

鉄筋材質は D10~D16=SD295A、D19~D25=SD345、D29~D32=SD390 とする。

通しダイヤフラム材質は C種、内ダイヤフラム材質は B種 とし、強度は柱梁の鋼材のうち最も高強度の材質と同じとする。

1階柱頭

1階柱脚

階	符号	C1	C2	C3・C16・C17(C17A)	C4(C4A)	C11・C12・C13・C14	C15
1階柱頭	断面						
	Dx x Dy	1000 x 1000	1000x1000	1000x1000	1000x1000	1000 x 1000	1000x1000
	主筋	20-D29	16-D29	20(16)-D29	14-D29	20-D29	18-D29
	帯筋	□-D13 @100	D13-■-@100	D13-■-@100	D13-■-@100 (D13-■-@100)	□-D13 @100	D13-■-@100
	仕口部帯筋	□-D13 @150	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@100	□-D13 @150	D13-□-@100
	鉄骨 X	○-355.6x9.5	-	-	-	□-400x400x22 (BCR295)	-
1階柱脚	断面						
	Dx x Dy	1000 x 1000	1000x1000	1000x1000	1000x1000	1000 x 1000	1000x1000
	主筋	20-D29	24-D29	20-D29	14(16)-D29	20-D29	18-D29
	帯筋	□-D13 @100	D13-■-@100	D13-■-@100	D13-■-@100 (D13-■-@100)	□-D13 @100	D13-■-@100
	仕口部帯筋	□-D13 @100	D13-□-@100	D13-□-@100	D13-□-@100	□-D13 @100	D13-□-@100
	鉄骨 X	-	-	-	-	-	-
鉄骨 Y	H-350x175x7x11 (SN490B)	-	-	-	H-400x200x8x13 (SN490B)	-	

柱 共通事項

共通事項（特記なき限り）

柱主筋位置・芯鉄筋を示す寸法は、標準寸法とする。

柱頭部かぶせ筋は、2門-D16x2（L2定着） とする。

せいが1mを超える柱、または鉄骨鉄筋コンクリート柱の帯筋は 溶接形 とする。

避雷導線は原則として柱外に設けるものとする。

避雷導線を柱内に通す場合、主筋を利用せず、別途導線用の鉄筋を柱断面の中心付近に配筋する。

柱頭部配筋要領図

柱頭主筋定着さが L2 確保できない場合は下記によるものとする。

抱束筋（「I」型）

スタースラップと同径・同ピッチ以下

かつD13以上

出隅部の鉄筋はフック付き

鉄骨大梁リスト

ブレースリスト

共通事項（特記なき限り）

鉄骨材質は STKN490B とする。

通しダイヤフラム材質は C種 とし、強度は柱梁の鋼材のうち最も高強度の材質と同じとする。

屋外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。

階	符号	SC1	SC11,SC12,SC13,SC14	V1	V26	V21
2・R 階	全断面	○-355.6×9.5	全断面	全断面	全断面	全断面
備考		メインアリーナ	サブアリーナ,BCR295	メインアリーナ	サブアリーナ	サブアリーナ

接合部区分図

1階柱梁接合部

B1階柱梁接合部

最下階柱梁接合部（柱脚）

逆梁順梁接合部帯筋 配筋要領図

逆梁部

※印範囲

順梁より下部（一般部）

柱脚部コンクリート充填に関する鋼骨柱仕様

柱脚部のコンクリート充填は「逆梁順梁」の要領とし、以下の要領とする。

C1、C11~C14の逆梁順梁内プレート厚は（A）のコンクリート流入入口および流出出口を確保すること。

（A）鋼骨内プレート厚要領

逆梁部

※印範囲

順梁より下部（一般部）

2023年版

06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事

代表設計者

一級建築士 大臣登録 第52731号

柴 恭

代表設計者

一級建築士 大臣登録 第178097号

構造設計一級建築士証交付番号 第6499号

酒寄 光一

S

47

建築工事

柱リスト、ブレースリスト

1:30, 1:50 (A1)

1:60, 1:100 (A3)

最終版

2024年12月

20230220

鉄筋コンクリート大梁リスト 1:50		共通事項（特記なき限り）															
鉄骨鉄筋コンクリート大梁リスト 1:50		鉄筋材質は、 D10～D16＝SD295A、D19～D25＝SD345、D29～D32＝SD390 とする。		* 幅止筋は D10@1000以内 とする。		* D19以上の腹筋は、それが定着する部材内に 40d 以上アンカーのこと。また、継手については、梁主筋と同様とする。											
				* 備考欄LDの数値は RC柱型面からの主筋の定着長（余長含む）＜カットオフ長さ＞を示す。													
						凡 例 スターラップ 4－D13@200 は左図 Ⅳ－D13@200 を示す。											
階	符 号	G1		G2		G2A	G3	G4 (G4A)		G5		G6		G7			
	位 置	C1端・中央		C2端		端 部 (G2A端)	中 央	全断面	全断面	端 部 (G4A端)	中 央 (中央・他端)	A3・A8通り端	中 央・他 端	C2通り端	中 央/Ys1・Ys2通り端	端 部	中 央
	断 面																
	B x D	900 x 1000		900 x 1000		900 x 1000		900 x 1000		700 x 1000		700 x 1000		700 x 900~1000		700 x 900 (1000)	
	上 端 筋	4－D29		6－D29		6－D29		6－D29		10 (12)－D29		10－D29		6－D29		9－D29	
	下 端 筋	4－D29		4－D29		6－D29		4－D29		7 (8)－D29		7－D29		6－D29		8－D29	
	鉄 骨	－		H－500x200x10x16 (BH－500～600×200×12×16)		HY－600x250x12x28		－		－		－		－		－	
	あばら筋	3－D13 @200		2－D13 @200		2－D13 @200		4－D13 @150		3 (4)－D13 @200		3－D13 @200		3－D13 @200		3－D13 @200	
	腹 筋	4－D10		4－D10		4－D10		4－D10		4－D10		4－D10		4－D10		4－D10	
	LD									G4のみ LD＝2400							
	備 考	ひび割れ止め筋D19とする。		(ハンチ LH = 600)				ひび割れ止め筋D19とする。		() 内はG4Aを示す。						(ハンチ LH = 600)	
				() 内はG2A端を示す。													
階	符 号	G8			G9 (G9A)			G21	G22		G23		G23A				
	位 置	C1端	中 央	C2端	C1端	中 央	C2端	全断面	端 部 (X4通り)	中 央	端 部 (X4通り)	中 央	C1端・中央	他 端			
	断 面																
	B x D	900×1000			900 x 1000												

鉄筋コンクリート大梁リスト 1:50		共通事項（特記なき限り）		壁リスト 1:50		共通事項（特記なき限り）	
鉄骨鉄筋コンクリート大梁リスト 1:50		鉄筋材質は、 D10～D16＝SD295A、D19～D25＝SD345、D29～D32＝SD390 とする。		鉄筋材質は、 D10～D16＝SD295A、D19～D25＝SD345 とする。		鉄筋材質は、 D10～D16＝SD295A、D19～D25＝SD345 とする。	
		幅止筋は D10@1000以内 とする。		巾止筋は 縦横共 D10@1000 以下とする。		巾止筋は 縦横共 D10@1000 以下とする。	
		備考欄LDの数値は RC柱型面からの主筋の定着長（余長含む）＜カットオフ長さ＞を示す。		鉄筋の継手は 重ね継手 とする。		鉄筋の継手は 重ね継手 とする。	
		凡 例 スターラップ 4－D13@200 は 左図 Ⅲ－D13@200 を示す。					
階	符 号	G31		G32		G33	
		位 置	Yn1・Yn4通り端	中 央・他 端	端 部	中 央	Y通り端
		断 面					
		B x D	700 x 1000		900 x 1000		900 x 1000
		上 端 筋	9－D29	5－D29	6－D29	6－D29	8－D29
		下 端 筋	8－D29	8－D29	6－D29	6－D29	7－D29
		鉄 骨	－		HY－400x200x12x19		－
		あばら筋	3－D13 @200		2－D13 @200		4－D13 @150
		腰 筋	4－D10		4－D10		12－D19
		LD					
		備 考	Yn3－Yn4間の腰筋は12－D19				ひび割れ止め筋D19とする。
2FL	断 面						
階	符 号	G34		G35			
		位 置	端 部（Yn1通り端）	中 央	端 部	中 央	
		断 面					
		B x D	700 x 1000		900 x 1000		
		上 端 筋	7（8）－D29	5－D29	8－D29	6－D29	
		下 端 筋	5－D29	6－D29	6－D29	6－D29	
		鉄 骨	－		－		
		あばら筋	4－D13 @200		3－D13 @200		
		腰 筋	4－D10		4－D10		
		LD					
		備 考	（ ）内はYn1通り端を示す。		ひび割れ止め筋D19とする。		
2FL	断 面						
階	符 号	CG1	CG2	CG3	CG21		
		位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	
		断 面					

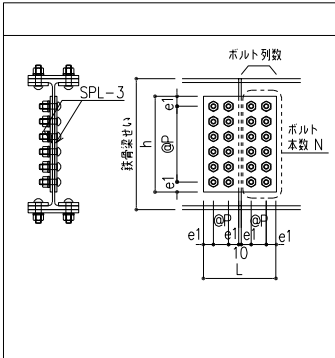
鉄骨大梁リスト	共通事項（特記なき限り）											
	○ 鉄骨材質は SN490B とする。			○ 露外露出となる部材は、溶融亜鉛メッキを施すものとする。			○ ピン接合部材に対して、接続される部材のフランジ幅が不足する場合は、PL突合せ溶接より			○ ※印付梁には、側面補強PLを設ける。仕様・要領は図示による。		
	○ H形鋼の使用区分は H: JIS規格H形鋼、HY: 外法一定H形鋼、BH: 組立H形鋼とする。			○ 接合部は「鉄骨構造標準接合部 SCSS-H97」に準じてボルトおよびスプライスプレートを用			フランジ幅を拡張のうえ、GPLを溶接する。			○ ピン接合部材の場合は継手リスト（ウェブ継手）による。バックリフPLは、ウェブSPLと		
	○ HからHY、もしくはHYからBHへの変更は、部材の寸法・板厚が変わらない範囲で可とする。			設けること。			なお、PLの材質・板厚は、取り付く大梁のフランジと同材質、同厚とする。			同厚・同材質とする。		

階	符号	RG1（メインアリーナ）		RG2（メインアリーナ）		SG1（メインアリーナ）		SG20,SG21（サブアリーナ）		SG30（サブアリーナ）		SG31（サブアリーナ）		SCG45（サブアリーナ）		SCG25（サブアリーナ）	
		屋根				全断面	H-400x400x13x21	全断面	HY-450x250x12x16	全断面	HY-450x250x12x16	端部	HY-800x300x14x25	元端部	HY-450x250x12x16	全断面	H-244x175x7x11（SN400B）
R階		全断面	○-700x40（STKN490B）	全断面	○-700x36（STKN490B）			全断面	HY-450x250x12x16	全断面	HY-450x250x12x16	中央	HY-800x300x14x22	先端部	HY-450x250x9x16		
2階								端部	HY-450x250x12x19	全断面	HY-450x250x12x16						
								中央	HY-450x250x12x16								

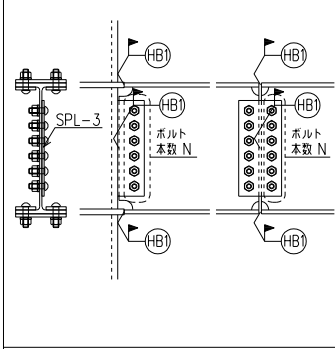
鉄骨継手リスト (フランジ・ウェブ)	共通事項（特記なき限り）			
	○ 継手は原則として「鉄骨構造標準接合部 SCSS-H97」による。		○ ボルトは、高力ボルト：S10T とする。	
	○ スプライスプレートは 母材と同材質 とする。		ただし、溶融垂鉛メッキの範囲に継手がある場合は F8T とする。	
	○ フィラープレートは SS400 とする。		○ 外装材取付ファスナー等の調整を行い、監督職員（設計者）の了承を得て	
	○ G13,DG1,DG11,DG12は現場溶接のため仮止めボルトとする。		継手形式を最終決定するものとする。	

材 質	部材メンバー （中央 断面）	フランジ継手								ウェブ継手							備 考
		ボルト			SPL-1		SPL-2		L	ボルト			SPL-3				
		径	列	本数N	板厚	B1	板厚	B2		径	列	本数N	板厚	h	L		
SN490	HY-400x200x12x16	M22	2	6	12	200	12	80	410	M22	1	4	9	260	170		
	HY-400x200x12x19	M22	2	8	12	200	16	80	530	M22	1	4	9	260	170		
	H-500x200x10x16	M22	2	6	12	200	12	80	410	M22	1	6	9	380	170		
	HY-450x250x9x16	M22	2	8	12	250	12	100	530	M22	2	10	9	320	290		
	HY-450x250x12x16	M22	2	10	16	250	16	100	650	M22	2	10	9	320	290		
	BH-400x250x12x25	M22	2	8	16	250	16	100	530	M22	1	4	9	260	170		
	HY-600x250x12x28	M22	2	12	19	250	19	100	770	M22	2	10	9	440	290		
	HY-600x250x16x32	M22	2	14	19	250	19	100	770	M22	2	12	9	500	290		
	HY-800x300x14x22	M22	2	12	16	300	19	110	620	M22	2	16	16	620	290		
	H-400x400x13x21	M22	4	16	12	400	16	170	530	M22	2	8	12	260	290		

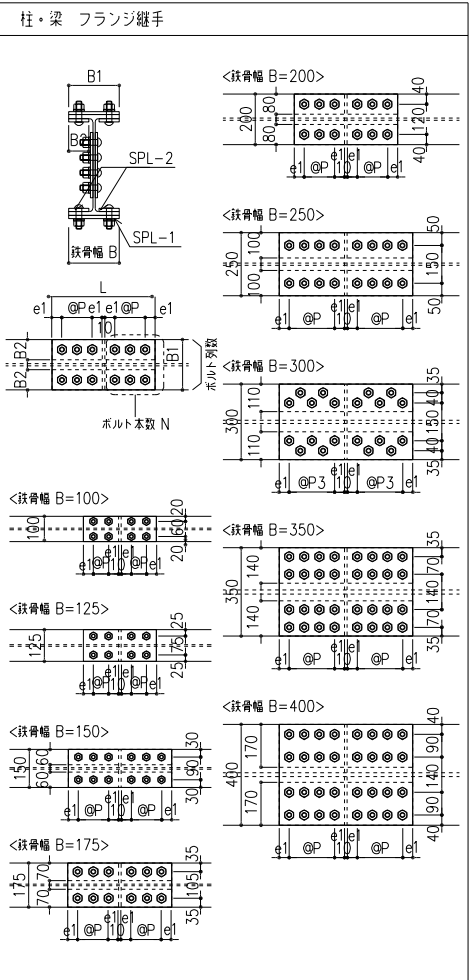
材 質	部材メンバー （中央 断面）	フランジ継手								ウェブ継手						備 考
		ボルト			SPL-1		SPL-2		L	ボルト			SPL-3			
		径	列	本数N	板厚	B1	板厚	B2		径	列	本数N	板厚	h	L	
SN400	H-300x150x6.5x9	M20	2	4	9	150	9	60	290	M20	1	3	9	200	170	
	H-450x200x9x14	M20	2	6	12	200	12	80	410	M20	1	5	9	320	170	
	H-150x150x7x10	M20	2	4	9	150	9	60	290	M20	1	2	9	80	290	
	H-200x200x8x12	M20	2	4	9	200	9	80	290	M20	1	2	9	140	170	



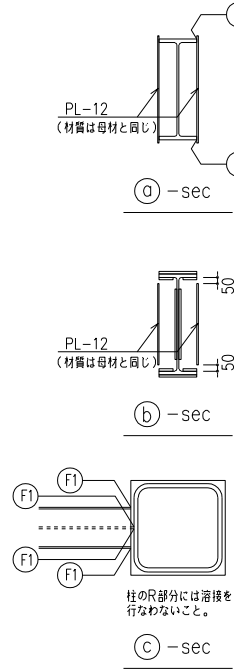
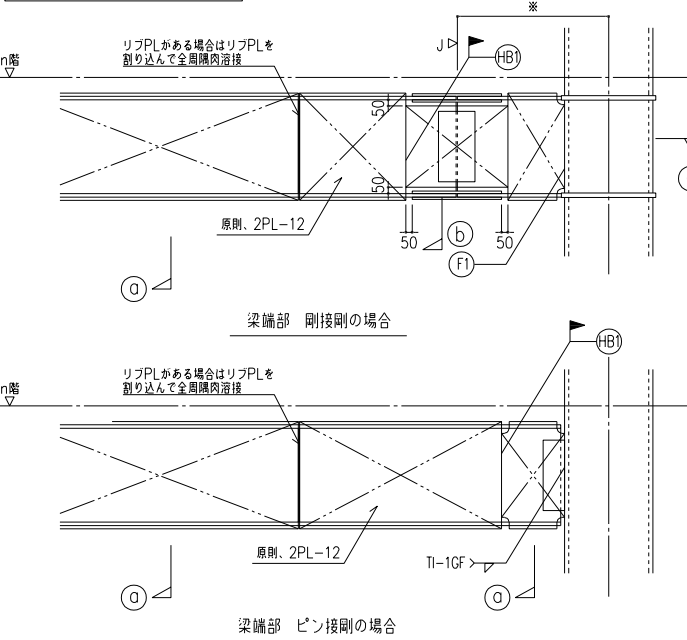
柱・梁 フランジ・ウェブ継手（現場溶接）



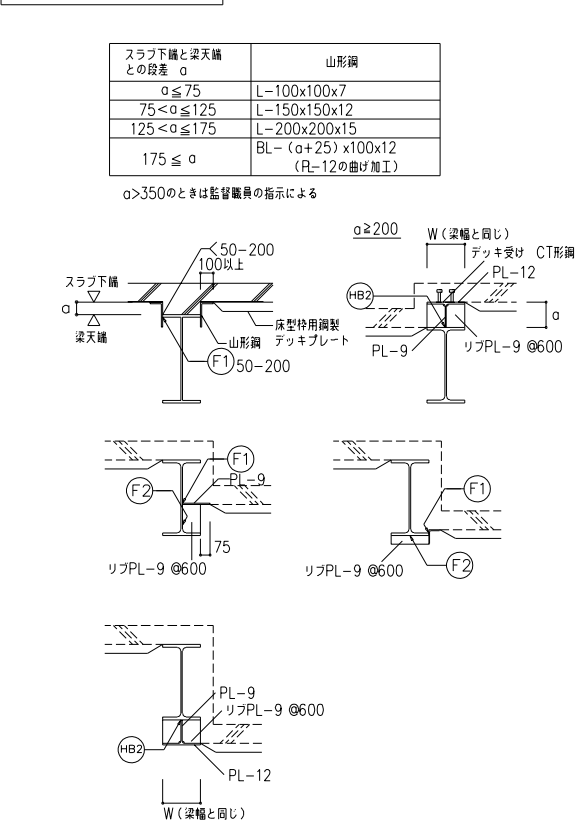
柱・梁 フランジ・ウェブ 共通			
	e1	P	P3
M16	40	60	45
M20	40	60	45
M22	40	60	45



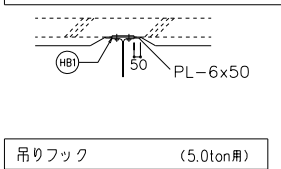
※印付梁 補強プレート要領図



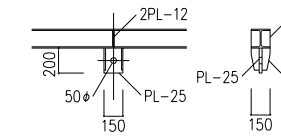
梁端差かさ上げ材要領



大梁継手部デッキ受け

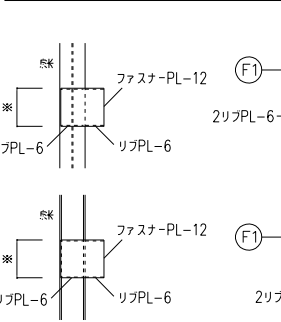


吊りフック（5.0ton用）



EVプラットフォーム詳細図 1:30

共通事項（特記なき限り）	
・鋼材質 SN400B とする。高力ボルトは S10T を原則とする。	
・※印付法は 意匠図参照。	



＜代表設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第52731号 柴 恭		06国補都構 常陸太田市新総合体育館新築工事				
＜構造設計者＞ 一級建築士 大臣登録 第178097号 構造設計一級建築士証交付番号 第6499号 酒寄 光一		S	建築工事		最終版	2024年12月
		50	大梁リスト（3）、継手リスト 1:30 (A1) 1:60 (A3)			
		株式会社 柴建築設計事務所				